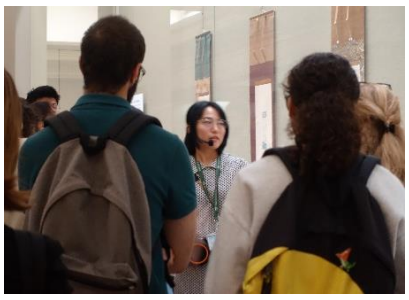
【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（５館共通）ア、（東京国立博物館）ア、イ、ウ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 課長　鈴木みどり<br>教育普及室長　川岸瀬里<br>教育講座室長　金井裕子<br>ボランティア室長　小野塚拓造 |

【実績・成果】
(5館共通)
ア　月例講演会を12回行い、満足度は89.7%であった。
（東京国立博物館）
ア　講座・講演会は原則、対面での実施とし、事前申込・指定席制・中間に休憩時間を入れるなど、来館者にとって混乱の少なく快適に感じられる運営方法を継続して行った。また、聴覚が不自由な人向けの音声字幕サービス(UDトーク）と、補聴器利用者のためのヒアリングループのサービスを継続して導入した。「留学生の日」では、5年度もニーズの多かった外国語話者のためのギャラリートークを、韓国語と英語に加え、中国語でも実施した。
イ
（ア）ファミリー向け教育普及展示として「親と子のギャラリー　よりそう動物たち―家族・仲間のすがたとかたち―」を実施した。恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館の 3 館連携企画を継続し、各館の専門家の意見をパネルや展示にも取り入れ、三館園職員による講演会「上野の山で動物めぐり」に加え、会場配布用リーフレットの制作、キッズデーにおけるギャラリートークなどを開催した。
　また、キッズデーを 4 日間（5 月 26 日、7 月 28 日、11 月 24 日、7 年 1 月 26 日）開催し、子どもたちが楽しめるワークショップ、ギャラリートークやたんけんプログラムなど、作品鑑賞や博物館に親しめるプログラムを実施するとともに、キッズスペースや託児所を開設し、親子連れが来館しやすい環境を整えた。
(イ)「博物館でアジアの旅」開催期間中を中心に、東洋館ミュージアムシアターを利用したスライドトークを開催した。このほか「博物館でお花見を」では「東博句会　花見で一句」「お花見ヨガ in 法隆寺宝物館」、博物館でアジアの旅」では「アジたびマップ 2024」の編集制作と音声ガイドのほか、それぞれの期間中に、ぬりえワークショップ、ボランティアのガイドツアー等を実施した。また未就学児向けに館内の楽しみ方を示した「ウェルカムリーフレット」を 11 月から 7 年 3 月にかけて配布し、ウェブサイト上で PDF のダウンロードができるようにした。また、「博物館に初もうで」期間中に、カレンダーポストカードを配布した。
(ウ)特集「親と子のギャラリー」の開催、総合文化展に関連した体験プログラムやキッズデーの実施、子ども向けリーフレット作成、教育普及スペース(本館 19 室、本館地下みどりのライオン)、日本文化のひろば、東洋館オアシス等で、年間を通して体験型プログラムを実施した。日本文化のひろばの一部コンテンツを改修し、インターネット上に公開する準備をした。
ウ　スクールプログラムは対面実施を基本とし、来館や滞在時間の確保が難しいなどの場合にはガイダンスビデオを提供した。教員研修を特別展「神護寺」にあわせ実施したほか、台東区、狛江市の社会科教員研修の依頼を受け実施した。また、盲学校のためのスクールプログラムでは、児童生徒に加え、PTAへの研修を実施した。


留学生の日ギャラリートークの様子

キッズデーの様子

スクールプログラムの様子

【補足事項】
ア　講演会 16 回、参加者数 4,340 人、ギャラリートーク 27 回 5,663 人（配信 1 回 4,091 人を含む）
イ　親と子のギャラリー「よりそう動物たち～家族、仲間のすがたとかたち～」(5 月 14 日～6 月 16 日)
ウ　スクールプログラム 211 回 11.641 人（小中高 193 校 11,641 人(小学校 30 校 1,742 人、中学校 100 校 4,978 人、高校 73 校 4,753 人、一貫校 7 校 168 人)、盲学校のためのスクールプログラム 6 回 26 人（うち児童生徒 5 回 21 人)、(小学校 1 校 1 人、中学校 3 校 4 人、高校 1 校 16 人、PTA 研修 1 回 5 人)、職場体験 14 校 44 人（中学校 8 校 25 人、高校 6 校 19 人）教員研修 4 回 83 人

| 【定量的評価】項目 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等の満足度アンケート | 89.7% | 88% | B | | - | 84.9 | 85.3 | 87.1 |
| 講演会等の開催回数（関連指標） | 16回 | - | - | | 19 | 39 | 32 | 59 |

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>さまざまな来館者層に配慮を行ない、誰でもがアクセスできるよう、学習機会を提供している。また、館全体の季節ごとのイベントにも積極的に関連事業を行なうことで、鑑賞へのアプローチを行なった。以上のことから、B判定とする。 |
| 【中期計画記載事項】<br>講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。 | |
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>中期計画4年目として、さまざまな来館者に教育普及事業を行ない、近隣文化施設とも連携協力をすることで、順調に計画を実施できている。 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A2

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（東京国立博物館）エ、オ

| 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課<br>学芸企画部博物館教育課<br>学芸企画部博物館教育課<br>学芸企画部博物館教育課<br>総務部総務課 | 事業責任者 | 課長　鈴木みどり<br>教育普及室長　川岸瀬里<br>教育講座室長　金井裕子<br>ボランティア室長　小野塚拓造<br>課長　竹之内勝典 |
|---|---|---|---|

（東京国立博物館）

エ　特別展「はにわ」において、11 月 11 日に、三菱商事株式会社との共催による「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。講演会「見どころ解説」において、音声字幕サービス（UD トーク）を運用した。

さまざまな障がいを持つ来館者や外国人来館者のために、以下の取り組みを新たに行った。

障害者差別解消法および合理的配慮を理解するために職員研修を実施し、38 名が参加した。また対応が遅れている聴覚障害者、ろう者の感覚やニーズ等を知ることを目的に、当事者と協働してワークショップを開催し意見交換を実施した。軽度認知障害(MCI)対応の基礎として認知症対応マナー研修の受講、MCI 支援者との意見交換を行った。

6 年度も外国人来館者は多く、トーハクなびのダウンロード数も増加した。外国人観光客に対応し、本館特別 4 室「日本文化のひろば」を中心に案内資料に外国語対応を継続した。さらなる外国人観光客の増加と日本文化への理解増進のため、7 年 2 月 14・21・28 日に通訳案内士 70 人に向けて研修を行った。また、7 年 1 月 28 日には外国人観光客の満足度向上のために、外国人旅行者の動向や今後の予測、ニーズなどに関する職員研修を実施し 44 人が参加した。

感覚過敏の来館者のためのセンサリーマップの英語版や、印刷用の PDF 版の制作を行ない、ウェブサイトに公開するとともに、イベント時にカームダウンスペースを設置した。

さらに、視覚障がい者、聴覚障がい者への鑑賞支援やユニバーサルデザイン化への取り組みなどを引き続き行った。

聴覚障害当事者との協働ワークショップ

「障害者差別解消法」の職員研修

オ

・台東区主催によるイベント（第18回　台東区の伝統工芸職人展）の館内での実施に協力した。
・観光庁特別体験事業「東博縁日」の中で、平成館ラウンジ内に日本文化体験ワークショップのブース「Let's Design with Traditional Patterns 伝統文様でデザインしてみよう」「Let's Try Calligraphy 書道を体験してみよう」「Let's Try Making Netsuke toggle 根付を作ってみよう」（いずれも日・英での対応）を8月27日（火）～9月1日（日）に実施した。
・JR東日本が実施する街歩きツアーに協力し、ツアー客の黒田記念館及び庭園の観覧を受け入れた。
・外国人を対象とした本館のガイドツアーを企画し、11 月 10 日（日）に、欧州の外国人大学院生向けに、茶道体験と併せて開催した。また、「見せる修理所」のガイドツアーを、10 月以降、継続的に実施した。

【補足事項】
・トーハクなびダウンロード数　Android版13,323件（累計27,85128,561件）、iOS版33,747件（累計98,24194,379件）令和2年3月31日公開
・観光庁特別体験事業「東博縁日」の中で、平成館ラウンジ内に日本文化体験ワークショップのブースでは、参加者は、外国人観光客を中心に、それぞれ「Let's Design with Traditional Patterns 伝統文様でデザインしてみよう」64人、「Let 's Try Calligraphy 書道を体験してみよう」101人、「Let 's Try Making Netsuke toggle 根付を作ってみよう」128人の参加があった。

| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：A | 【判定根拠、課題と対応】<br>教育普及担当職員の研修に加え、博物館職員全体にまで範囲を広げた研修機会を作り、館全体で障がい者や外国人来館者、インバウンドへの取り組みに対して基盤となる考えを共有することができた。さらに、「センサリーマップ」に関連する取り組みを引き続き行い、館内外への助言を行なうとともに、聴覚障害者や認知症患者と家族への対応など、幅広い来館者のための取り組みに繋げることができた。以上より年度計画を超える活動ができたとしてA評定とした。 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 【中期計画記載事項】<br>講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。 | |
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>中期計画4年目として、障がい者や外国人来館者を含む、多様な来館者への鑑賞支援や来館支援に取り組み、多岐にわたる事業を実施できた。<br>以上のことから、所期の計画を遂行できていると判断し、B評価とした。 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B

| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（５館共通）ア、（京都国立博物館）ア、イ、ウ

| 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 教育室長　大原嘉豊 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
（５館共通）
ア 京都国立博物館においては、32回の講演会等を開催し、満足度は88％であった。
（京都国立博物館）
ア・「記念講演会」(9回・1,454人)、「土曜講座」(19回・1908人)、「夏期講座(変革の時代―16世紀)」(1回・148人)を実施した。
イ・「博物館Dictionary」(6回・34,300部)を発行し、ウェブサイトにも掲載した。
・新春特集展示「巳づくし―干支を愛でる―」を、入門的な内容とし、平易な題箋の作成、ワークシート「さがしてみよう！こんなへび」(日英6,500部・中韓1,700部) の発行を行った。

ワークショップ
「めくって雪舟」

・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日英中韓 各26本）を作成した。
・京博ナビゲーター（ボランティア）が担当し、文化財のレプリカや材料の見本などのハンズオン教材を通して大人から子どもまで、楽しく文化財に親しむことができる「ミュージアム・カート」を実施した（136日）。
・京博ナビゲーターによる特別展関連ワークショップ、「めくって雪舟」(39日・4,287人)、「とびだせ!たいまマンダラ」(48日・4642人) を実施した。
・仏画展示「密教図像にみるコピー技術」の開催に合わせ、昔の人々が使ったコピー技術である「油紙（ゆし)」を体験できる小学生高学年向けのワークショップ、「少年少女博物館くらぶ」を実施した（1回・10人)。
ウ・「文化財に親しむ授業」(7回・484人)、複製を活用した授業への助言・補助（3回・196人）を行った。
・「社会科教員のための向上講座」(1回・61人）を実施した。
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（4回・27人）を行った。
・京都府立丹後郷土資料館「ワークショップ・体験コーナー　初めての仏像体験」(1回・21人）への教材貸出・事前研修を実施した。
・海外博物館からの、博物館教育に関する視察対応（3件）を行った。

【補足事項】
イ・特別展のワークショップ実施など、事業の増加に伴い「少年少女博物館くらぶ」は平成28年度より実施していなかったが、室員の増員・事務の効率化等を経て、6年度は「少年少女博物館くらぶ」を再開することができた。
・特別展関連ワークショップは、参加した研究者によって新聞記事で紹介される等、好評を得た。
・夏期講座と、特別展「法然と極楽浄土」の記念講演会を、従来の整理券方式から、ウェブフォームでの申込みに切り替えたところ、遠方からの参加者が予定を立てやすくなったこともあり、アンケートでも大変好評であった。ただし当日の受付業務のために従来の2倍の人員が必要となるため、運営方法については課題が残った。

| 【定量的評価】項目 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等の満足度アンケート | 87％ | 82％ | B | | 83.4 | 86 | 84.7 | 84 |
| 講演会等の開催回数（関連指標） | 32回 | － | － | | 23 | 31 | 34 | 38 |

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
例年継続して行ってきた活動に加え、数年来実施していなかった「少年少女博物館くらぶ」を再開することができた。また、講座・講演会の申込み方法の見直しを行い、ウェブフォームからの申込みにすることで、利用者の利便性を大幅に向上させることができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響で活動を中止していた京博ナビゲーターの再開に伴い、特別展関連ワークショップも再開した。
さらに、京都府立丹後郷土資料館と連携協力して教材の貸出・事前研修の実施や、海外の博物館からの視察に対応など、当初の予定を大きく超える活動を行うことができたことからA評定とした。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
これまで行ってきた、講演会や訪問授業、印刷物の発行などに加え、「少年少女博物館くらぶ」の再開、講座・講演会の申込み方法の改善、他館への協力、海外博物館からの視察対応、5年度再開した京博ナビゲーターによる特別展ワークショップの再開など、計画以上の活動を行うことができた。
また、5年度に引き続き、各種運営マニュアルの整備を行い、7年度以降の安定した活動のための地盤づくりも行うことができた。以上のことから、中期計画を大きく上回る成果を得られていると判断し、A評定とした。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1311C

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供 |
| 【年度計画】 | ・Ⅰ-1-(3)-①-1)（５館共通）ア、(奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 教育室長　中川あや |

【実績・成果】
（５館共通）
ア　講座は計22回開催し、アンケートの結果、サンデートークの平均満足度は92.9%、公開講座の平均満足度は91.6%、夏季講座の満足度は93.5%であった。
（奈良国立博物館）
ア　講座・ワークショップ
・サンデートーク（毎月第3日曜日開催）は12回実施し、計1,259人の参加があった。
・公開講座は特別展（5回）及び特別陳列（4回）の会期中に9回実施し、計1,106人の参加があった。
・夏季講座は1回（2日間にわたり5講座）実施し、136人（延べ272人）の参加があった。
・文化財保存修理所の一般公開を7年1月9日に実施し、111名の参加があった。
・わくわくびじゅつギャラリー（特別陳列）「フシギ！日本の神さまのびじゅつ」会期中、親子向けワークショップを1日2回実施し、48人の参加があった。
イ　小中学校との連携
6年度の学校プログラムの受け入れ件数は51件で、参加者数は3,524人だった。そのうち奈良市立小学校5年生の受け入れ件数は30件で参加者数は1,820人、奈良市立小学校5年生以外の小・中・高等学校等の受け入れ件数は21件で、参加者数は1,704人だった。また、大分県と連携し、大分県内の中学校を対象として遠隔操作ロボットを活用したオンライン中継授業を2回実施し、参加者数は53人だった。さらに奈良県内の中学校からの職場体験の受け入れを2回実施し、参加した生徒数は8人だった。
ウ　奈良教育大との連携
奈良教育大学大学院と連携し、わくわくびじゅつギャラリー「フシギ！日本の神さまのびじゅつ」親子向けワークショップ2種（「ダンボールびわをつくろう！～神さま さまざま ワークサマー①～」と「しかけ絵本をつくろう！～神さま さまざま ワークサマー②～」）の企画と実施を共同で行った。
エ　体験型プログラムの充実
地下回廊のならはく教育普及スペース「ちえひろば」にて開館日に恒常的に体験できるプログラム（まいにちワークショップ）5種（「仏像＆ならはくミニクイズ！」、「さわって！発見！仏像の木」、「ほとけさまにふれよう！」、「ならはく5・7・5をつくろう！」、「今日会える仏像」）と、毎月2回（第2・4日曜日）体験できるプログラム（とくべつワークショップ）2種（「ほとけさまに服を着せよう！」、「絵巻物をみて！きいて！さわろう！」）を実施した。まいにちワークショップの実施日数は284日で参加者数は63,102人、とくべつワークショップの実施回数は計76回、参加者数は6,367人だった。

【補足事項】

サンデートークの様子

奈良教育大学と連携して実施したワークショップ

| 【定量的評価】項目 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等の満足度アンケート | 92.7% | 89% | B | | 90.4 | 92 | 88.2 | 94.8 |
| 講演会等の開催回数（関連指数） | 22回 | - | - | | 12 | 27 | 26 | 21 |

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
講演会は計画通り22回実施した。満足度アンケートの結果は目標値を上回り、高水準であった。小中学校との連携において、学校プログラムの受入件数は5年度と同水準であったが、参加者数は増加した。職場体験の受入回数も5年度と同水準であり、地域の教育活動への関わりが定着してきていると評価できる。奈良教育大学と連携してのワークショップでは、企画と運営を大学院生に担当してもらうことに加え、ポスターデザインを奈良教育大学附属中学校の中学生に担当してもらう試みを実践した。これにより、博物館における博学連携の新たなモデルを構築することができたと言える。教育普及スペース「ちえひろば」での体験プログラムのうち、まいにちワークショップの参加者は5年比約300%増となり、博物館における学習機会提供の場として存在感を増したと評価できる。以上、アンケートにおいて当初の目標を上回るだけでなく、博学連携の新たなモデルの構築など多彩な実践と参加者の増加など、非常に高く評価できる成果を上げることができかことから、Aと判断した。

| | |
|---|---|
| 【中期計画記載事項】<br>講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。 | |
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>講演会、教育機関との連携事業については、5年度同様の規模を維持している。また、設置2年目である教育普及スペースにおける体験プログラムは、利用者数の増加を見て取ることができ、博物館が提供する諸体験の一つとして重要な役割を果たしている。以上から、中期計画に基づく事業を順調に遂行したと判断した。 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D1

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（5館共通）ア、（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ、ク、ケ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 交流課<br>学芸部企画課<br>展示課 | 事業責任者 | 課長　高椋剛太<br>課長　伊藤信二<br>課長　齋部麻矢 |

【実績・成果】
（5館共通）
ア　6年度は40回の講演会等を開催し、アンケート結果は満足度92.0%であった。
（九州国立博物館）
ア　6年度は特別展示室改修工事のため、特別展記念講演会は特別展「はにわ」関連のみとなった。特別展「はにわ」では、記念講演会 国宝「埴輪 挂甲の武人」の歴史的意義 －最新の修理と調査－（7年3月16日　講師：河野正訓氏（東京国立博物館主任研究員)、参加者：236人）を開催し、はにわと展示作品の理解を深めた。
イ
・特集展示「モンゴル襲来の痕跡を探る」では、シンポジウム「モンゴル襲来と海の路―元の軍船の航路を探る―」（6年11月4日　登壇者：高津孝氏（放送大学特任教授、鹿児島大学名誉教授)、伊藤幸司氏（九州大学比較社会文化研究院教授)、宮武直人氏（長崎県埋蔵文化財センター）　参加者：120人）を長崎県教育委員会と共催し、モンゴル襲来の最新の研究成果について理解を深めた。
・特集展示「人吉球磨の玉手箱」では、リレー講座（11月16日（土）　登壇者：出合宏光氏（相良氏教育委員会教育課長)、九州国立博物館　小池寧々、齋部麻矢　11月30日（土）　登壇者：手柴友美子氏、岸田裕一氏（人吉市教育委員会)、手柴智晴氏（山の中の海軍の町にしき ひみつ基地ミュージアム）を2回開催し、地域の歴史や展示作品に関する理解を深めた。
・特集展示「人吉球磨の玉手箱」では、同時期開催の特集展示「モンゴル襲来の痕跡を探る」と併せて、「太宰府市観光協会」及び「九州国立博物館を愛する会」に対して特別観覧を開催（11月7日　参加者：95人）し、展示の概要説明と会場での作品解説を行った。また、「福岡歴史観光市民大学講座」に当館研究員を講師として派遣し、展示内容と人吉球磨地域の歴史について解説を行った。
ウ
・文化交流展示をより深く理解し楽しんでいただくために、毎月奇数週の火曜日に、展示室内各所で研究員によるミュージアムトークを開催した。
・多様な方に博物館を楽しんでもらう取組の一環として、ミュージアムトーク「さわって体験！本物のひみつ」(8月31日、参加者：32人)を手話通訳付きで開催した。
・きゅーはく春のツアー「お花をさがそう！」では、トークショー「日本の花々と自然観」を開催し〔4月14日 登壇者:村雨辰剛氏（庭師・俳優)、五十嵐靖晃氏（アーティスト)、酒井田千明（当館主任研究員）　参加者：228名〕、日本人と花々や樹木が紡いだ歴史や自然観について理解を深めた。
・きゅーはくサマーツアー「博物館で昆虫採集」では、講演会「働かない働きアリがいるって本当？　アリたちの不思議な世界」〔8月18日　講師：村山貴弘氏（岡山理科大学教授）　参加者：155名〕を開催し、アリを始め昆虫について理解を深めた。
エ
・特集展示の、より深い話や裏話を交えた「きゅーはく☆とっておき講座」を4回開催（4月6日、6月1日、9月14日、9月21日、参加者：332人)、特集展示に関連するリレー講座2回（11月16日、11月30日、参加者：81人）を開催した。
・きゅーはく☆とっておき講座「さわって体験 ！ひみつの楽しみ方」（9月14日、参加者：25人)を、手話通訳・要約字幕付きで開催した。
ク
・立花家史料館からの依頼により、第8回立花家史料館オンラインLIVEツアーに当館研究員を派遣した。講演会「立花宗茂遺愛の刀剣と備前刀の魅力」（立花家史料館、11月30日　登壇者：望月規史（当館主任研究員）参加者：110人）を開催し、近世大名家と刀剣の伝来について理解を深めた。
・大牟田市立図書館からの依頼により、大牟田市立図書館に当館研究員を派遣した。講演会「九州の古刀について」（カルタックスおおむた、7年1月19日　登壇者：望月規史（当館主任研究員）参加者:44人）を開催し、九州における刀剣の歴史について理解を深めた。
・筑紫野市歴史博物館の依頼により、特別展「はにわ展」の見どころを紹介した予習講座「しっとこ九博」に当館研究員を派遣した(7年1月23日、登壇者：白井克也（当館学芸部長）参加者：41人）。
・公益財団法人九州経済調査協会の依頼により、特別展応援セミナー「物語を伝える埴輪」に当館研究員を派遣した（7年2月14日、登壇者：白井克也（当館学芸部長）参加者：36人)。
・旧福岡県公会堂貴賓館の依頼により、九州国立博物館が貴賓館にやって来る！歴史講座「物語を伝える埴輪」を派遣した（7年3月9日に2回実施、登壇者：白井克也（当館学芸部長）参加者：34人)。
ケ
・作品の「観覧」が難しい視覚障がい者にも展示を楽しんでいただく取組として「視覚障がい者と楽しむ対話型鑑賞会」を開催した(9月29日、参加者：19名　内視覚障がい者8人　晴眼者9人　内小学生3人)。参加した視覚障がい者と晴眼者の双方の意見や感想を集約し、視覚障がいが先天性か後天性かによってもイメージの構築方法が異なることが明らかになるなど、対話型鑑賞の今後の課題が浮き彫りになった。

・発達特性がある方は、見通しを立てることで安心して新しい場所でも訪問できることから、館内のルールや楽しみ方を写真と分かりやすい文章で説明した「はじめて九州国立博物館に行く人のための　あんしんガイド」を作成した。また、同伴者用として入館料や施設の予約方法などを示したより詳しいガイドも制作し、関係機関に送付したほか、当館ウェブサイトにて公開、館内でも配布した。(印刷数：当事者用、同伴者用各 1,500 部、送付数：約 700 か所、3 月 31 日時点のウェブサイトページ表示数：4,493、ダウンロード数：9,662)
・慣れない場所で心が落ち着かなくなったり、パニックになりそうになった時に避難できる場所として「あんしんルーム」を 1 階に設置した。

【補足事項】

トークショー「日本の花々と自然観」

| 【定量的評価】項目 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等の満足度アンケート | 92.5% | 86% | B | | 92.3 | 92.2 | 93.8 | 96.3 |
| 講演会等の開催回数（関連指標） | 40回 | - | - | | 19 | 50 | 53 | 44 |

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
特別展ではいずれも専門的かつ多角的な見地からの講演会やトークショーを実施し好評を得た。
定期的な展示解説や研究成果の公表など展示室関連イベントを実施したことで、文化交流展示室への興味と理解度を高める効果が認められた。また、障がい者を含め多様な方が楽しめる事業を増やし、内容を充実させながら継続的に実施したことで参加者が増加し、高い評価を得ることができた。以上のことから年度計画を大きく上回る成果を上げていると判断し、A評定とした。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に基づき、来館者に快適な観覧環境を提供すると共に、多角的な切り口で学習機会を提供するプログラムを実施し、その事業規模の拡大や内容の充実により、多数かつ多様な方々に参加いただいた。また国内外の機関や施設との連携や専門の講師を招聘することで、新しい手法で事業を実施し、来館者の多様さに対応するための新たな課題も明らかになった。
満足度を一層向上するための努力と魅力ある博物館を実現するための新たな取組も行い、中期計画を大きく上回る成果を上げていると判断し、A評定とした。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D2

| | |
|---|---|
| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（九州国立博物館）　オ、カ、キ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 交流課<br>学芸部企画課<br>展示課 | 事業責任者 | 課長　高椋剛太<br>課長　伊藤信二<br>課長　齋部麻矢 |

【実績・成果】
（九州国立博物館）
オ
・体験型展示室「あじっぱ」では、コロナ対策で閉室していたエリアを全て再開した。衣装体験やアジアの楽器の演奏体験を再開し、また小さな子供も楽しめる遊牧民のゲルを新たに設置した。ギャラリー「あじぎゃら」も10月から再開し「こけし」や「アジアの入れ物」といった楽しい展示を実施した。
・衣装体験で使用する平安時代初期の女性服（大人用、子ども用）及び古墳時代の冑を新規に制作した。
カ
・職場体験学習として、11校44人の中高生を受け入れた。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」は、のべ35団体・39パックを貸し出し、2,929人の児童生徒が教育資料を体験した。
・商業施設やイベントなどへのアウトリーチ活動として「きゅーはくきゃらばん」を7回行い、約2,005人の利用があった。
・学校教育活動支援事業として32校に対し、博物館までの交通費を助成し、1,878人の小中学生に様々な学習プログラムを体験してもらった。
キ
・インドネシアの楽器「ガムラン」に関するワークショップ（10月6日、参加者：28人）を開催した。ワークショップでは、楽器を演奏し合奏するまでの体験を提供するとともに「現代インドネシアのガムラン事情」公演も行い、参加者からは非常に好評であった。
・モンゴルの楽器「馬頭琴」に関するワークショップ（11月2日、参加者：10人）を開催し、楽器を演奏し合奏するまでの体験を提供し、年齢・性別を問わず好評であった。
・弥生時代の甕棺のレプリカを使ったワークショップ「やさしい日本語　de きゅーはく2024　王さまが死んだ！甕棺に入れよう」を実施した。6年度は新たに「発達特性がある方」向けの回を設けた。「外国人向け」も募集したが、参加者が集まらなかったため、一般向けを２日間行った。発達特性がある方の同伴者からは、「発達障がい者向けのイベントがあると参加しやすい」との声もいただいた。(8月10日：発達特性がある方向け、8月11日、12日：一般向け、参加者各回10人、計30人)
・弥生時代の貫頭衣、古墳時代の衣装、平安時代初期の衣装を着る衣装体験イベント「古代人に変身！」を開催し、老若男女問わず大変好評であった。また事前にチラシを郵送した、放課後等デイサービスからの団体参加も多数あったほか、外国人からも大変好評であった。(11月30日、参加者：約150人)
・体験型特集展示「さわって体験！本物のひみつ2025」を、夏休み期間を中心に展示室を拡大して開催した。

【補足事項】
・体験型展示室「あじっぱ」は、15回の展示替えを実施した。特集展示「モンゴル襲来の痕跡を探る」と連携し、モンゴルの衣装体験・遊牧民のゲルの体験を提供した。
・高校生の考古・歴史系部活動の活動成果を発表する場として、「全国高等学校歴史学フォーラム2024」を実施した。本フォーラムには、福岡県から4校5グループ、他県から5校が参加した。特別参加として、福岡県立香椎工業高等学校電子機械科製作の甲冑レプリカを2体展示した。フォーラム終了後は、エントランスホールにて参加校のポスターを展示し、当日参加できなかった方にも見学の機会を提供した。

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>「あじぎゃら」を含む「あじっぱ」完全再開をはじめ、学校教育活動支援事業、学校貸出キットの提供、「きゅーはく号」の活用により、児童生徒だけでなく幅広い層に体験型コンテンツを提供することができたことから左記の評定とした。 |

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>コロナ禍で中止していた体験型展示室「あじっぱ」再開など、コロナ禍前の運営方式に戻すことができた。また学校教育活動支援事業、職場体験、きゅーはくきゃらばんの実施など、多くの学習機会を提供し、中期計画を着実に遂行できていることから左記の評定とした。 |

【書式A】　施設名 皇居三の丸尚蔵館　処理番号 1311I

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（５館共通）ア、（皇居三の丸尚蔵館）ア、イ

| 担当部課 | 展示・普及課 | 事業責任者 | 展示・普及課長　戸田浩之 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
（５館共通）
ア　講演会のアンケートは96.4%であった。（ギャラリートーク 95.6%・特別鑑賞会 97.97%の平均）
（皇居三の丸尚蔵館）
ア
- 開催する展覧会で、未就学児から小学生を対象に「しょうぞうかんでこれみっけ！」と題したワークシートを無料配布した。
- 開催期間が夏休み期間となる展覧会「いきもの賞玩」では、「○○いたよ！」と題した、収蔵品のなかに描かれた生き物を探し、深い鑑賞を促すワークシートを配布、またエンボススタンプを作成し、ワークシートの達成記念として提供した。
- 展覧会「公家の書」の開催時期に合わせて、展示作品の国宝《春日権現験記絵》解説リーフレットの中国語版・韓国語版を、それ以前に制作していた英語版をもとに制作し、配布した。
- 展覧会「公家の書」の開催時期に合わせて、展示作品の《古今和歌集賀歌三首（大色紙）》の解説リーフレット（日本語版・英語版）を配布した。
- 展覧会「瑞祥のかたち」の開催時期に合わせて、国宝《動植綵絵》の解説をコンパクトにまとめ、全30幅を掲載した日本語版解説リーフレットを配布した。
- 展覧会「皇室のみやび―受け継ぐ美―」の第3期では、ギャラリートークを開催した。第3期のギャラリートークが予想をはるかに上回る参加者であったことから、同展第4期では混雑回避のため、展示室を巡らずにひとつの作品についてじっくり解説する「展示室deいっぴんトーク」を開催した。
- 展覧会「いきもの賞玩」以降の夜間開館を実施した金曜日には、夜間開館来館者の誘客と満足度向上のためギャラリートーク「展示室 de 作品解説」を展覧会ごとに開催した。（21回、参加者1911人、満足度95.2%　）
- 展覧会「瑞祥のかたち」では、こども鑑賞会「はじめのいっぽ」と題し、小学生向けの解説会を開催した。（参加者数：1/13 7人、1/19 5人）
- 展覧会「百花ひらく」では、英語・中国語による、外国人向け多言語ギャラリートークを開催した。（2回、参加者43人、満足度100%）
- 各展覧会で出品作品の魅力を伝え、理解を深めるための10分弱の動画を作成し、会場でプロジェクター投影した。
- 毎月最終金曜日の夜間に、研究員による解説付きで館内を20人限定の貸切で鑑賞可能できる特別鑑賞会(参加費5,000円)を実施し、より深い鑑賞体験を提供した。

イ　地方展開展において職員が講演する等、皇居三の丸尚蔵館の収蔵品などの魅力発信に努めた。

「展示室 de 作品解説」の様子

「○○いたよ！」ワークシート用スタンプ

【補足事項】
　一部開館中のため、教育普及スペースが限定される中で、ワークシートの配布やギャラリートークの開催など工夫したうえで実施した。

| 【定量的評価】項目 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等の満足度アンケート | 96.4% | － | － | | － | － | － | 98.8 |
| 講演会等の開催回数（関連指数） | 38回 | － | － | | － | － | － | 5 |

| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：A | 【判定根拠、課題と対応】<br>　ワークシートの制作や鑑賞ガイドの作成、ギャラリートークの開催などを適切かつ積極的に実施し、成果を上げた。特に月末の金曜日夜間に実施した特別鑑賞会では、満足度97.97%を得た。また、小学生向けの企画や中高生から高齢者、さらには外国人も楽しむことが可能な幅広い普及事業を実施した。職員によるギャラリートークを年間32回実施し、特に外国人向けの英語・中国語によるギャラリートークは、国内でも画期的な取組であり満足度100%となった。以上のことから、当初の計画を大幅に超えたものと判断し、A評価とした。 |
|---|---|

【中期計画記載事項】
　講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>　8年度の全面開館時には、講演会なども可能な教育普及スペースが確保される予定である。今中期では、全面開館に向けさまざまな層に向けて様々な層に向けた教育普及プログラムの実績を積み上げ・検証し、着実に成果をあげている。 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（東京国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

| 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | ボランティア室長　小野塚拓造 |
|---|---|---|---|

ア　本館各所でのご案内、体験コーナーの運営（東洋館 6 室オアシス、本館 19 室みどりのライオン）、講演会のサポート、トーハクキッズデーにおける各イベントのサポートを継続して行った。また、今年度はじめての取り組みである「東博縁日」のワークショップサポートも行い、5 日間でのべ 91 人が活動した。

イ　点字パンフレットの印刷、盲学校対応プログラムの準備及び実施、触知図や筆談ボード等を用いたご案内を継続実施した。また、来館者へのご案内に活かすため、感覚過敏やバリアフリー、ユニバーサルデザインに関する関心や理解を深めるためのボランティア対象研修や情報発信を行った。英語ガイドグループが作成した触知図の英文紹介資料を、海外からの来館者への案内に生かせるようボランティア全体の資料として共有した。

ウ　屋外での対面ガイドツアー及びワークショップ、5 年度に再開した法隆寺宝物館、東洋館、考古展示室での対面ガイドを継続的に実施した。本館展示室での対面ガイドは近年の展示室の混雑状況に鑑み、本館地下みどりのライオンにおけるスライドトークとして継続した。ただし「留学生の日」「トーハクキッズデー」などのイベント時には、従来のガイドツアーの枠にとどまらない新たな企画を行うなど、各グループの工夫が見られた。各グループとの打合せに加え、日ごろから研修会や練習会を開催し、これらの活動をサポートした。

エ　6 年度よりスクールプログラムの実施補助を再開した。以前は、ボランティアによるプログラムの実施もあったが、まずは、誘導等のサポートの活動から再開とした。また、キャリア学習の一環として職場体験の受入も継続し、生徒による館内案内等の活動をボランティアがサポートした。

オ　屋外および法隆寺宝物館、東洋館、考古展示室でのガイドツアーのほか、本館でのガイドツアーグループによるスライドトーク、アートスタジオによるワークショップ、子ども向けマップ「たんけんマップ」発行に継続的に取り組んだ。トーハクキッズデーにおける自主企画グループによるプログラムは、プラ板つくり等の新しいプログラムが加わり、多い回では 8 プログラムを実施した。従来のプログラムも新しい要素を加え、改良しながら実施することができた。

東洋館 6 室オアシスでの活動

「東博縁日」での活動

屋外ガイドツアー

【補足事項】
ボランティアを育成し、その活動の質を高めるための研修を30回実施した。
東京藝術大学大学院インターン1名を受入れ、主題や原稿の検討、トークの練習など合計9回の会合を重ね、2月にお客様向けのスライドトークを合計4回実施した。各スライドトークの運営をボランティアがサポートし、合計99人の来場者をえた。

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 年度計画に基づき、館内案内、各種事業の補助活動、障がい者対応に取り組んだ。5年度に再開した自主企画グループによるガイドツアー等も、6年度で安定的に実施できるに至った。コロナ禍に始めたスライドトークも継続し、各種イベントにあわせたプログラムも方法と内容を工夫して実施できた。以上のことから、B評定とした。 |

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

| 【中期計画に対する評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 中期計画の4年目として、ボランティア活動の活性化と来館者への学習機会の向上を目指し、ボランティアの育成、活動支援を実施した。ボランティアの自主性と来館者サービスの向上の観点を重視しつつ、自主企画グループによる新規プログラム開発や、プログラムの改良などにも取り組むことができた。また各種研修も実施し、来館者へのサービス向上を目指しながらボランティア自身の生涯学習にもつながった。東博縁日等、新しいイベントも含め各種イベントでのサポートなども積極的に行われていることからＢ判定とした。 |

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

| | |
|---|---|
| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（京都国立博物館）ア、イ、ウ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 課長　森考平<br>教育室長　大原嘉豊 |

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア　「京博ナビゲーター」を対象とした研修を実施した（3回）。3回の研修のうち1回は、従来の「ナビゲーター感謝会」を改組し、知識の習得と伝える力の向上を目指す「ステップアップ研修」として新たに実施した。
「京博ナビゲーター」（203人）が、ミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（136日）、特別展でのワークショップ（「めくって雪舟」39日、「とびだせ！たいまマンダラ」48日）を行った。

イ　収蔵品調査や社寺調査補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。（16人）

ウ　「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した(21回)。
「文化財ソムリエ」（20人）が、京都市内の小中学校への訪問授業「文化財に親しむ授業」（7回・参加者484人)を行った。

文化財ソムリエに向けたスクーリング

京博ナビゲーターに向けた研修

【補足事項】

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>5年度に引き続いて、「文化財ソムリエ」による訪問授業を実施することができた。また、5年度に活動を再開した「京博ナビゲーター」については、特別展関連ワークショップの研修の再開に加え、従来の「ナビゲーター感謝会」を発展的に改組した「ステップアップ研修」を新たに実施することができた。 |

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>「文化財ソムリエ」による訪問授業については、スクーリング内容や授業内容について改善を行い、より充実した活動を実施することができた。「京博ナビゲーター」については、「ステップアップ研修」を新たに実施したり、運営のための各種マニュアルを整備したりする等、7年度以降の安定した活動のための地盤づくりも行うことができた。 |

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1312C

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（奈良国立博物館）ア、イ、ウ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 学芸部教育室 | 事業責任者 | 教育室長　中川あや |

【実績・成果】

**ア　ワークショップの実施：**

当館地下回廊のならはく教育普及スペース「ちえひろば」にて、仏教美術をはじめとした文化財に親しめるワークショップを開館日毎日開催した。「ちえひろば」にて開催しているのは、【まいにちワークショップ】と【とくべつワークショップ】の2種で、ボランティアが実施を担当している。【まいにちワークショップ】では、仏像の素材となる木材に触れる、香りを嗅ぐ等のハンズオン展示「さわって！発見！仏像の木」を実施したほか、地下回廊の仏像模型コーナーをクイズ形式で楽しく鑑賞できるワークシート『仏像＆ならはくミニクイズ』を配布する活動を行った。さらに、当館に来館した思い出の川柳や俳句を創作するワークショップ「ならはく5・7・5をつくろう！」のほか、なら仏像館での展示鑑賞をより能動的にする仏像解説シート『今日会える仏像』の配布も行った。さらに、2月19日より、当館所蔵の国宝 薬師如来坐像の模像に触れるワークショップ「ほとけさまにふれよう！」を新たに開始した。【とくべつワークショップ】は、文化財の複製品等を活用する内容のワークショップである。基本毎月第二日曜に、裸の仏像のレプリカに服を着せるワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」を計13回開催し、見学者数は1,273人、着付けの体験者数は1,083人だった。そして、基本第四日曜日には、国宝「辟邪絵」や「地獄草紙」のほか、国宝「信貴山縁起絵巻」を題材として絵巻物について体験的に学ぶワークショップ「絵巻物をみて！きいて！さわろう！」を計12回開催し、見学者数は1,570人、体験参加者数は828人だった。

とくべつワークショップ「絵巻物をみて！きいて！さわろう！の開催風景

**イ　学校プログラム ならはく「世界遺産学習」の実施：**

5年度に引き続き、奈良市内のみならず、各地域の小・中学校、高等学校等を対象に学校プログラム ならはく「世界遺産学習」を実施し、ボランティアが児童・生徒等を案内した。

**ウ　なら仏像館の名品展や庭園・茶室のガイドの実施：**

基本開館日毎日の10時から16時の間に、ボランティアがなら仏像館に常駐し、名品展に関する質問を受け付けたり、解説ツアーを実施したりする等の活動を行った。ミニツアーの実施回数は2,943回で、参加者数は5,308人だった。加えて、当館の敷地内にある庭園・茶室のガイド活動を春と秋に実施した。実施回数は計11回で、見学者数は16,852人だった。

学校プログラム　ならはく「世界遺産学習」の実施風景

【補足事項】
ア　まいにちワークショップ「さわって！発見！仏像の木」実施日数284日、『仏像＆ならはくミニクイズ』配布枚数：22,093枚、「ならはく5・7・5をつくろう！」の参加者数：2,094人、『今日会える仏像』シートの配布枚数：35,551枚、「ほとけさまにふれよう！」の参加者数：3,364人
イ　奈良市立小学校：30校1,820人、その他小中学校・高等学校等21校1,704人

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：A | 【判定根拠、課題と対応】<br>5年度に引き続き6年度も、ワークショップや学校プログラム、名品展のガイド等、様々なボランティア活動を実施した。また、6年度はまいにちワークショップに『今日会える仏像』シートの配布活動、模像に触れるワークショップとして「ほとけさまにふれよう！」を新たに加えるなど、教育普及活動をより充実させた。このように、多種多様なボランティア活動を行えており計画以上の成果と言えることから、Aと判定した。 |

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：A | 【判定根拠、課題と対応】<br>ボランティアによるガイド活動のほか、体験型要素を重視したワークショップ活動など、様々な教育普及活動を活発に展開することにより、児童・生徒から大人まで、更には外国人来館者等、幅広い層が文化財や歴史に親しめるような機会を提供できている。また、5年度より開始した「ちえひろば」の活動を継続して充実させた。そのため、中期計画以上の成果を上げたと判断しA評価とした。今後は、ボランティア研修を定期的に行う等してボランティアを育成していくとともに、ボランティアが実施を担う教育普及活動を一層充実させ、来館者サービスの向上を図る。 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

| 中項目 | 1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

| 担当部課 | 交流課 | 事業責任者 | 課長　高椋剛太 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
3年任期の最終年となる6年度は5年度と同様にコロナ禍前を上回る成果をあげた。
ア　ボランティア（214人）は次の12部会いずれかに所属し、主体的に活動している。
　展示解説（47人）文化交流展示室における展示案内及び「Qボックス」での質問対応
　教育普及（26人）体験型展示室「あじっぱ」内における活動支援及び展示物の説明、当館の教育普及事業への支援
　館内案内　日本語（29人）、英語（17人）、中国語（6人）、韓国語（13人）
　　多言語による施設案内及びバックヤードツアーの実施、「ボランティアカウンター」での来館者対応
　環　　境（26人）文化財環境保全のためのIPM活動及び館内美化活動の支援
　ｲﾍﾞﾝﾄｻﾎﾟｰﾄ（7人）　来館者向けのイベントの企画・立案・運営、ボランティア広報誌の制作・発行
　資料整理（8人）　郷土人形（秋吉コレクション）の調書作成及び展示
　学　　生（5人）　来館者向けのイベントの企画・立案・運営
　フィールド（14人）遊歩道の維持管理、山林の保全活動
　手　　話（16人）手話通訳での館内案内及びバックヤードツアー、展示案内の通訳、聴覚障がい者対応のイベント支援
　※第7期ボランティア募集を行い、新たに183人のボランティアを登録した。
イ　ボランティアのスキルアップとモチベーション向上のため、専門講座や館外研修などを実施した。
ウ　ボランティアが自ら企画し運営する各種イベントを行い、多くの来館者が参加し好評を得た。
エ　小中学校の児童生徒を対象とする「学校教育活動支援事業」（博物館概要説明、展示解説、バックヤードツアー）をボランティアの案内、解説により実施した。

【補足事項】
・ボランティアによる来館者案内人数（単位：人）
　「学校教育活動支援事業」の参加者は含まない。

| 項目 | 元年度 | 2･3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 館内案内・展示解説 | 13,385 | 休止 | 8,884 | 13,154 | 11,142 |
| バックヤードツアー | 2,343 | | 2,744 | 2,849 | 3,520 |
| 案内総数 | 15,728 | | 11,628 | 16,003 | 14,662 |

・専門講座は、「展示案内研修（太宰府の史跡、やきもの、古文書）」、「環境研修（九博周辺の自然環境について）」、「韓国と日本の文化的関わりについての講話」を実施した。
・館外研修は、6部会が先進地を調査し、スキルアップを行った。
　・展示解説：岩戸山古墳ほか
　・日本語：いのちのたび博物館ほか
　・英語：宗像大社ほか
　・韓国語：佐賀県立名護屋城博物館
　・環境：長崎県立長崎歴史文化博物館ほか
　・フィールド：響灘ビオトープほか
・ボランティア主催イベントは、教育普及、環境、イベントサポート、学生の各部会が中心となって計22回実施し、多くの来館者に喜ばれた。特に、7月に教育普及部会が主催した「あじっぱ夏祭り」では、2日間で延べ600人以上が参加した。
・6年度の「学校教育活動支援事業」では、32校、1,878人の児童生徒を受け入れた。
・フィールド部会では12月末に等身大の門松を作成し、元旦から太宰府天満宮方面から訪れる来館者をお迎えし、写真撮影する方々も多く好評だった。

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：A | 来館者の案内人数はコロナ禍前と同水準を維持している。また、ボランティアのモチベーション向上やスキルアップにより、ボランティアが自ら企画し運営する主催イベントを5年度の13回を大幅に上回る22回実施し、多くの来館者に博物館の楽しさや魅力を伝えることができた。<br>ボランティア募集では、ボランティア自身が各部会の説明、PRを行い、前回(第6期)の141人を大幅に上回る183人の新規ボランティアの加入に貢献した。以上のことから年度計画を大きく上回る成果を上げていると判断し、A評定とした。 |

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

| 【中期計画に対する評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：A | 4年度から徐々に活動を開始したボランティアが任期の最終年を迎え、活動の集大成となる中、ボランティア各自が活動に意欲的に取り組み、モチベーションアップにつながる好循環が生まれた。<br>来館者への対応が質・量ともに充実し、ボランティア自ら様々な活動を主体的に行うようになった。以上のことから中期計画を大きく上回る成果を上げていると判断し、A評定とした。 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1313A

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（4館共通）ア、（東京国立博物館、奈良国立博物館）ア、（東京国立博物館）ア、イ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 総務部総務課<br>学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 課長　竹之内勝典<br>課長　鈴木みどり |

【実績・成果】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズ加入校数 72 校（内訳 法人：3、大学：58、専門学校：2、学部・学科：9）が本制度を利用し、31,620 人の学生、1,765 人の教職員が総合文化展を観覧した。なお、学生に対する特別展割引については、展覧会ごとに割引料金を設定し実施した（6 年度は、特別展「法然と極楽浄土」、「内藤礼　生まれておいで 生きておいで」、特別展「神護寺―空海と真言密教のはじまり」、特別展「はにわ」、特別展「旧嵯峨御所 大覚寺―百花繚乱 御所ゆかりの絵画―」で実施した）。
（東京国立博物館、奈良国立博物館）
ア　東京国立博物館インターンシップを再開し、23 名のインターンを受け入れた。情報資料室、情報管理室、出版企画室、教育講座室、上席研究員、総務課の各部署で活動した。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の事業や取組についてスライドトーク形式でレクチャーする「博物館セミナー」及びキャンパスメンバーズ加入校の中でも将来学芸員を志望する学生を対象とし、博物館実務全般について講義・実習する教育連携事業「博物館学講座」を実施した。「博物館セミナー」は、平成館大講堂にて対面で開催した。
イ
・国際交流及び日本文化の紹介を目的として 10 月 5 日（土）に「留学生の日」を開催し、留学生等は平常展を観覧無料とし、671 名の留学生等が来館した。同日は国際交流室員による英・中・韓国語のギャラリートークや、ボランティアによるアートスタジオ「留学生のための根付づくり」及び各種ガイドを実施した。
・東京藝術大学大学院インターンを 1 人受け入れ、本館地下みどりのライオンでお客様向けのスライドトークを 4 回実施した。
・日本大学芸術学部美術学科彫刻コースとの共催により、柳瀬荘を会場として、当該美術学科彫刻コース教職員・学生と卒業生による作品展、令和 6 年度「第 10 回　柳瀬荘アート・教育プロジェクト：かたちとゆらぎ」を 13 日間にわたり実施した。

キャンパスメンバーズ連携講座の様子

【補足事項】
ア　キャンパスメンバーズ加盟校の学生を対象とした「博物館セミナー」（9月4日、申込23校267人、参加数182人）
　　キャンパスメンバーズ加盟校の学芸員志望学生を対象とした「博物館学講座」（9月2～6日、申込20校、参加34人）
イ　日本大学芸術学部美術学科彫刻コースとの共催：令和6年度「第10回　柳瀬荘アート・教育プロジェクト：彫刻と教育」には、528名が来場した。

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>6年度にはキャンパスメンバーズ制度へ新たに5校が加入したほか、昨年度に続いて対面での講義・実習を積極的に行った。これに伴い大学側とのコミュニケーションの機会も増え、より緊密で細やかな連携の需要も高まっている。<br>また、各種イベントについても参加者数が戻りつつある。これを受け、今後も継続的に大学との連携を深めていきたい。 |

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>5年度に続き、キャンパスメンバーズ制度の特典として明示している教育連携事業「博物館学講座」を実施した。同講座には定員に迫る申込があり、加入校側でも需要が高いことが伺えた。インターンシップも再開し、対面での事業に戻ることで、よりコミュニケーションをとりながら実施することができた。<br>今後は、コロナ禍において実施したオンライン配信等の新しい手法の利点も必要に応じて活用しながら、引き続き、インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与したい。 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（4館共通）ア、（京都国立博物館）ア

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 課長　森考平<br>教育室長　大原嘉豊 |

【実績・成果】
（4館共通）
ア
・キャンパスメンバーズの新規勧誘を行ったことで、入会校数は5年度から3校増加し、36校となった。
・会員校である学校に対し、ポータルサイト等を通じたキャンパスメンバーズに関する広報を依頼し、加入校36校との連携を行った。また、より良い制度の構築を目指し、匿名の電子アンケートや聞き取りを通して、会員校のニーズの把握を行った。
・会員校に対し、名品ギャラリーの無料観覧、特別展の観覧料金の割引、講演会の開催、研究誌・図録の無料提供、施設利用・撮影利用の割引等の特典を提供した。

（京都国立博物館）
ア
京都大学との連携の一環で同大学院人間・環境学研究科の客員教員として、尾野善裕（考古学・陶磁）、大原嘉豊（仏画）、永島明子（漆工）、上杉智英（書跡）の4人が大学院生（博士課程在学者）に対して、京都国立博物館内で、対面方式で文化財に関する講義・演習を行った。受講学生は計16人であった。また、所属する博士後期課程3人の学生については、演習において論文作成に向けた口頭発表を行わせるとともに、論文作成の指導を行った。

【補足事項】
ア
・キャンパスメンバーズ制度を案内するチラシを作成し、特典の利用促進に努めた。
・特別展「雪舟伝説―「画聖（カリスマ）」の誕生―」キャンパスメンバーズ向け講演会（4月21日 講師：保存修理指導室長　福士雄也）（1回・91人）
・特別展「法然と極楽浄土」キャンパスメンバーズ向け講演会
（10月13日 登壇者：nixon（辻村 知夏）氏/主任研究員　井並林太郎）
（1回・93人）

キャンパスメンバーズ向け講演会

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>キャンパスメンバーズについては、より多くの学生・教職員に利用してもらえるよう、担当者へ学内周知を依頼し、利用促進を促した。秋の特別展では、ゲストをお呼びして対談形式の講演会を実施し、作品の新たな楽しみ方を紹介した。また、今後のよりよいキャンパスメンバーズ制度を模索するため、会員校のニーズを聞き取り、関係性の構築に努めることができた。<br>また京都大学との連携講座である人間・環境学研究科の大学院生の講義に関しては、実際の文化財を用いた対面式の授業を行うことで、博物館ならではの授業及び研究指導を行うことができた。 |

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>キャンパスメンバーズの会員校数は増加しており、大学等との連携もできている。今後は、キャンパスメンバーズ会員校のより多くの学生に当館のサービスを利用してもらえるよう、広報活動により注力していく予定である。また、未加入の大学に加入してもらえるよう、現会員校へ積極的にヒアリングを行うなどして、潜在的なニーズの把握に努めていくこととする。<br>京都大学との連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財に関わる人材育成に貢献していくこととする。 |

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313C

| | |
|---|---|
| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア、(東京国立博物館、奈良国立博物館）ア、(奈良国立博物館）ア

| 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 課長　平石憲良 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
（４館共通）ア
　キャンパスメンバーズの勧誘及び更新を継続し、入会校数は5年度より2校増え29校となった。加盟校とは特別鑑賞会等で連携を継続した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館）ア
　インターンシップの募集を、5年度に引き続き継続して行った。
（奈良国立博物館）ア
　奈良女子大学と神戸大学へ引き続き連携講座のための講師派遣を行った。

【補足事項】
（４館共通）ア
・特別展「空海　KŪKAI―密教のルーツとマンダラ世界」、「第76回正倉院展」において、加盟校を対象に、研究員の解説付き鑑賞会を4月24日と11月8日に実施し、それぞれ11校43名、10校83名の参加があった。なお、正倉院展においては初の試みで、5年度キャンパスメンバーズの大学を訪問して意見交換した際にいただいた要望を実現したものである。
・奈良女子大学との協定書に基づき講師派遣を行っている。神戸大学大学院人文学研究科との連携として、6月7日に当館講堂において、特別展「空海　KŪKAI―密教のルーツとマンダラ世界」の解説授業を行った。
（東京・奈良）ア
・6年度は、インターシップの応募は無かった。

「正倉院展」キャンパスメンバーズ特別鑑賞会
（11 月 8 日 開催）

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 広くキャンパスメンバーズ制度の周知に努めた結果、会員校が5年度より2校増加した。<br>また、加盟校の学生及び教職員を対象にした特別鑑賞会を実施することで、各展覧会や館の活動に対する参加者の理解を深めることができた。さらに、各大学と連携して学生向けの掲示等の周知に注力した結果、来館したキャンパスメンバーズの学生と教職員の数は、5年度が13校103名の参加であったのに対し、6年度は21校126名と増加した。また、大学との連携講座も継続して実施した。<br>以上の取組から、計画を着実に実施することができたと考え、Ｂ評価とした。 |

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

| 【中期計画に対する評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 3年度より開始したキャンパスメンバーズ加盟校対象の特別鑑賞会を6年度も継続し、多くの学生・教職員の展覧会への理解度を深め、来館者を増加させることに成功し、中期計画を順調に遂行することができた。キャンパスメンバーズ制度や大学との連携協定による講座等については、若年層へ来館を促すためにも、加盟校の事務担当者との意見交換で出た意見を反映し、内容の充実及び機会の提供を図るとともに、更なる加盟校の増加を目指す。 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1313D

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア、
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（九州国立博物館）ア、イ

| 担当部課 | 学芸部博物館科学課<br>交流課<br>総務課 | 事業責任者 | 課長　木川りか<br>課長　高椋剛太<br>課長　為近雄一郎 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・キャンパスメンバーズによる大学等との連携を継続して実施した。(6年度における加入校内訳：大学10校、短期大学3校、専門学校2校、高等学校6校)
・西南学院大学の「博物館資料保存論」及び「日本史学Ｂ」を、当館のスタッフ延べ8人によるオムニバス講義として実施した。
・九州大学において博士論文審査委員として学位申請者の博士論文審査及び口頭試問を実施した。(5月1日)

西南学院大学学生への講義（6 月 8 日）

(九州国立博物館)
ア　博物館実習生を受け入れ、実習を実施した。
　　実施期間：8月20日～23日、26日～27日（6日間）
　　内容：博物館の各機能に関する講義、実習。
　　博物館実習生を18大学から20人受け入れた。
　　（うち、キャンパスメンバーズ校は4大学6人）
イ　放送大学の面接授業を実施した。12月5日～6日（2日間)、29人受講　講師8人。

博物館実習風景

【補足事項】
・大学との連携事業
「きゅーはくカフェコンサート」
　実施日程：6月21日、7月12日、9月20日、9月27日、10月18日、12月13日
　内容：福岡女子短期大学音楽科の学生による室内楽コンサートを開催した。
「九州国立博物館で、博物館浴しよう！」実証実験
　実施日程：7年1月11日
　内容：九州産業大学による「展示室見学の前と後で生理的・心理的にどのような変化が生じるか」の実証実験を実施した。
「九州女子大学 第57回卒業書作展」
　実施日程：7年2月11日～16日
　内容：九州女子大学書道履修学生による卒業制作展示を行った。

| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>大学等と連携した事業を継続して実施した。博物館実習では、18大学から20人を受け入れ、計6日間実習を行った。放送大学の面接授業は29人に対して実施した。特に6年度は、大学との連携事業に力を入れ、新たに「九州女子大学 第57回卒業書作展」を行ったほか、例年開催している「きゅーはくカフェコンサート」は、5年度の2回と比べ4回多く開催するなど、5年度を上回る成果を上げることができた。 |
|---|---|

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>当館が対応でき得る適切な数の実習生・研修生を受け入れ、中期計画どおり、人材育成に寄与できた。引き続き、これまで以上の成果を上げるべく、一層の広報周知を行い、大学との連携事業を推進していきたい。 |
|---|---|

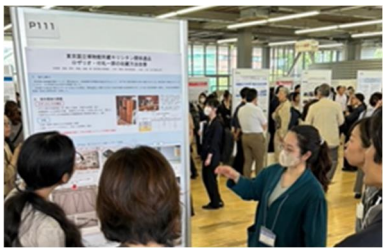
【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1314A

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（4館共通）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 学芸研究部保存科学課 | 事業責任者 | 保存科学課長　和田浩 |

【実績・成果】
（4館共通）
1）研究発表実績
修理技術に関する研究成果を公表し、修理技術者との情報共有を行った。
・「東京国立博物館所蔵「華角貼箱」の材質調査」6 月 22 日(文化財保存修復学会第 46 回大会）野中昭美・塚田全彦・Boris Pretzel・小椋聡子
・「東京国立博物館所蔵キリシタン関係遺品　ロザリオ・付札一群の収蔵方法改善」6 月 23 日(文化財保存修復学会第 46 回大会）　桐原瑛奈・野中昭美・佐藤萌・中村隆博・米倉乙世
・「鉄媒染絹布に対するフノリと膠を使用した処置方法の検討」6 月 23 日(文化財保存修復学会第 46 回大会)Ajla Redzic・佐藤萌・一宮八重・渡邉尚恵・早川典子


文化財保存修復学会での研究成果発表

2）国内外の保存修復分野に携わる人材の技術的相互支援等
有形文化財の保存と修理に関する人材と技術的に相互支援する取り組みを行った。
・メトロポリタン美術館の保存科学、保存修復担当者との材料評価に関する意見交換(4 月 10 日、於東京国立博物館)
・フランス国立文化遺産研究所で学ぶ学生への見学対応と意見交換(7 月 16 日、於東京国立博物館)
・神奈川県立近代美術館保存修復担当者との保存活動に関する意見交換(7 月 25 日、於神奈川県立近代美術館葉山館)
・(公財)上廣倫理財団の研究助成によるベルギー、オランダ、ドイツの国立、王立組織における保存修復部門の視察と意見交換（ベルギー王立文化遺産研究所保存修復担当者との保存活動に関する意見交換（9 月 12 日、於ベルギー王立文化遺産研究所）。ベルギー現代美術館保存修復担当者との保存活動に関する意見交換(9 月 13 日、於ベルギー現代美術館)。オランダ、ライデン国立民族学博物館の装こう修復部門の視察と意見交換（9 月 16 日、於ライデン国立民族学博物館）。オランダ、アムステルダム国立美術館保存修復担当者との意見交換（9 月 17 日、於アムステルダム国立美術館）。ドイツ、ベルリン国立民族学博物館・アジア美術館、紙本保存修復担当者との意見交換（9 月 19 日、於ベルリン国立民族学博物館・アジア美術館））
・トルコにおけるテキスタイル・フィールドコース講師(10 月 7 日-11 日、於（公財）中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所)
・公益財団法人ポーラ美術振興財団令和６年度美術館職員の調査研究助成による染織品保存修復のためのゲル・ワークショップ開催（講師：スミソニアン機構・米国/ローラ・ミナ氏）(12 月 9 日-11 日、於東京国立博物館)

トルコ・アナトリア考古学研究所におけるテキスタイル・フィールドコース

【補足事項】

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>研究会や国内外の交流の場を通じて、博物館所蔵品の修復処置方法や保存環境の改善に関する研究成果と修理経験から得られた知見を積極的に共有し、保存修復に携わる国内外の人材とのネットワークをさらに強化することができた。対面での活動が再び主流となり、議論や実践的な技術指導が活発化したことで、これまでオンラインでは難しかった具体的な技術共有や共同プロジェクトの立案が実現した。また、保存修復現場で生じる新たな課題に迅速に対応するための相互支援体制を構築し持続的な技術発展への基盤を一層確かなものとすることができた一年であった。 |

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>中期計画の4年目にあたる6年度は、保存修復分野における伝統技術の重要性を再確認しつつ、客観的かつ体系的な研究を進めることで、国内外に広く成果を発信する基盤をさらに強化することができた。対面形式の交流や共同研究の活性化により実践的な技術の検証や共有、人材育成が一層進み、計画目標に沿った具体的な成果が多方面で得られた。今後も中期計画の最終年度に向けて、さらに焦点を絞りつつ、持続可能な技術支援と人材育成の実現を目指す必要があると考えている。 |

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1314B

| | |
|---|---|
| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

| 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 保存修理指導室長　福士雄也 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
（４館共通）
・4月及び奇数月に文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。（巡回7回、会議7回）
・当館開催の特別展において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。（計2回・131人）
　特別展「雪舟伝説展」（4月16日・69人）
　特別展「法然と極楽浄土」（10月15日・62人）
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を開催した。（9月13日・11人）
・博物館における保存科学、修復の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。（計１回・3 人）
　官公庁の視察受け入れ（計 6 回・37 人）

【補足事項】
・文化財保存修理所巡回に際して、技術者より文化財の修理状況についての説明を受け、当館研究員が専門的な立場から指導・助言を行った。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は、多くの学校から意欲ある学生の参加があった。実際の修理現場を体感する研修を行うことで、学生の目的意識の向上を図ることができた。
・6 年度はインターンシップへの参加希望者はなかった。

保存修復技術を専攻する
大学院生のための研修会

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | インターンシップの受け入れはなかったが、年度計画に掲げる「国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与」については、保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会を実施することで、所期の目標を達成できたと判断したため、B評定とした。 |

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

| 【中期計画に対する評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 館長以下、総務・学芸両部の職員が修理所を視察する巡回や、定例会議の開催により、修理技術者との意思疎通を図ることができた。また、保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会など人材育成に係る事業を継続して実施し、中期計画4年度目として順調に計画を遂行できていると判断したため、B評定とした。 |

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1314C

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 | | |
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等<br>4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 | | |
| 【年度計画】・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通） | | | |
| 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 保存修理指導室長　鳥越俊行 |

【実績・成果】

・保存修理技術者を対象とする研修会を7年1月31日に開催した。

・海外の修理技術者等の視察を3回計9人受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。また、住友財団の助成担当者2人の視察を受け入れた。

【補足事項】

・文化財保存修理所技術者研修会

7年1月31日に当館講堂にて、文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催し、美術院代表者からの修理に関する報告（浄瑠璃寺所蔵「木造阿弥陀如来坐像9軀の修理について」）と討議を行った。参加者は37人。

文化財保存修理所技術者研修会の様子

・視察の内訳

6月6日：ドイツベルリン国立アジア美術館職員による視察（1人）

6月20日:インドネシア国立中央博物館職員等による視察（6人）

7月19日：英国ハンプトンコート宮殿職員による視察（2人）

11月1日：住友財団職員による視察（2人）

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：Ｂ | 【判定根拠、課題と対応】<br>視察の回数や人数は年により増減があるが、6年度は、ドイツ、インドネシア、イギリスの専門家の文化財保存修理所視察を受け入れることができ、日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えることができた。また、住友財団職員による視察を受け入れ、奈良博での文化財修理の考え方などについて意見交換することができ、計画どおり事業を遂行することができた。以上の理由から、Ｂと評価した。 |

【中期計画記載事項】

保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：Ｂ | 【判定根拠、課題と対応】<br>海外修理技術者の視察等を受け入れ、文化財保存修理所の修理技術者と海外の技術者の交流を継続して行っている。また、保存修理所技術者研修会を通じて修理所内の各工房に在籍する技術者間の交流を図ることができた。これらの活動を通じて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できおり、中期計画を順調に進めることができたと判断し、Ｂとした。 |

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314D

| | |
|---|---|
| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （３）教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 学芸部博物館科学課 | 事業責任者 | 課長　木川りか |

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）
1）ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流協定事業を継続し、現地における保存修理従事者の人材育成に寄与することができた。
2）修理技術者との協力により、教育・普及活動として館内職員及びボランティア、館内業者による寒糊焚きを実施した。

【補足事項】
Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）
1）ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流に係る事業
日　程：10 月 28 日～11 月 8 日
協力者：修理工房宰匠株式会社
内　容：ベトナム国立歴史博物館所蔵品の修理事業は、日本の修理技術者と当館職員が現地に赴き、現地の保存修理従事者とともに修理を実際に行うことで技術移転による人材育成を目指している。公益財団法人住友財団の助成を得て平成 25 年度より継続しており、元年度からは「神勅」16 通（紙本文化財）の修理事業（3 箇年度継続事業）を行った（新型コロナウイルス感染症の影響により 2～4 年度は中断。5 年度に再開）。最終年度に当たる 6 年度には 8 通の修理を行い、「神勅」の修理を完了した。また、7 年度以降の事業継続に向けて同館所蔵品の調査を行い、修理候補作品を選定した。

ベトナム国立歴史博物館における人材育成（中央が日本の修理技術者）

2）寒糊炊き
日　程：7 年 1 月 24 日
協力者：修理工房宰匠株式会社
内　容：寒糊炊きは、紙本絹本文化財の修理に不可欠な小麦粉澱粉糊を炊き上げる作業で、例年、作業に最も適した大寒の時期に行われる。炊き上げたばかりの「新糊」を涼暗所にて約 10 年間寝かせると、適度に接着力が弱まった「古糊」が得られ、修理の工程によって使い分けられる。当館では開館以来、文化財修理への理解を深める機会とするため公開で行っている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2～5 年度は館内職員のみとしていたが、6 年度はボランティア及び館内業者も参加対象者に加えて実施した。

寒糊炊き

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | ベトナム国立歴史博物館の「神勅」修理事業を完了し、保存修理従事者の人材育成に寄与することができた。また、教育・普及活動として寒糊炊きを、6年度は館内職員に加えボランティア及び館内業者も加えて実施できたことからＢ評定とした。 |

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

| 【中期計画に対する評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 5年度に続き、一部の研修等は新型コロナウイルス感染症等拡大防止の観点から中止した。しかし、文化財の保存修理従事者の人材育成を継続するため、修理技術者とも協力して対応可能な内容と時期を検討し、中期計画に沿って事業を実施したことからＢ評定とした。 |

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1315A

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、（東京国立博物館）ア、イ

| 担当部課 | 総務部総務課 | 事業責任者 | 課長　竹之内勝典 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
（４館共通）
ア　会員総数は17,407件となり、5年度（15,824）から1割増となった。
イ
・賛助会員及びその同伴者を対象として、賛助会感謝デーを開催し、7月27日（土）・7月30日（火）・7月31日（水）の3回に分けることで、会員数増加、実施曜日に配慮して実施した。事業報告会、研究員による特別講演、創建1200年記念 特別展「神護寺―空海と真言密教のはじまり」の貸切観覧、軽食の提供を行ない、当館の研究員や職員との交流を図った。
・各特別展の内覧会実施時には、賛助会員向けの内覧の時間を設けた。
ウ
・賛助会団体会員である、みずほ銀行の「みずほプレミアムクラブ会員」向けに11月4日（月・休）にイベントを実施した。オンライン配信と現地参加で同時に特別解説「東洋美術を巡る旅」実施し、現地参加者には、東洋館貸し切り見学を行い、当館及び賛助会制度についての認知度向上に努めた。
（東京国立博物館）
ア
・賛助会員（個人プラチナ会員）向けの特別見学（ガイドツアー）を実施し、継続的な支援者獲得の促進を図った。参加を希望された会員に対し、関心のある分野を伺い、担当研究員から解説を受けながら見学してもらうことで、資料・作品への理解を深めていただいた。
・賛助会個人会員限定のガイドツアー「研究員と巡る“埴輪の奥深さに触れる旅”」（11月21日（木）から22日（金）まで、1泊2日）を企画し、有償で実施した。研究員による解説付きで、「群馬県立歴史博物館」、「相川考古館」、「群馬県埋蔵文化財センター」及び「保渡田古墳群・かみつけの里博物館」などを巡った。本ガイドツアーには、賛助会員15名が参加した。
・当館の新しいビジョンを共有し、主に未来を担う子どもたちを対象とした施策の実現に向けた支援の輪を広げることを目的として、支援いただいている個人・団体を招いて「TOHAKU GALA」を実施した。
イ
・上野の山文化ゾーン連絡協議会に参加し、上野の山文化ゾーンフェスティバルへの協力をはじめ、引き続き上野地区各施設との連携を図った。また、東京文化会館主催の「夏休み子ども音楽会」「Music Program TOKYO まちなかコンサート～芸術の秋、音楽さんぽ～」等、上野地区の施設と協力しての連携事業も継続して行った。
・上野地区の文化施設や近隣商店会等と協力を行い、国際博物館の日記念事業「上野ミュージアムウィーク」を国際博物館の日〈5月18日（土)〉をはさみ17日間実施した。
・台東区主催「上野公園北部エリアまちづくりイベント」9月6日（金）及び7日（土）に協力を行った。
・JR東日本が企画する上野のまちあるきツアーに協力して黒田記念館特別室を特別に開室し、庭園とあわせた観覧を受け入れた。

【補足事項】
（４館共通）
ア　賛助会員件数690件の内訳は、個人会員610人（プラチナ13人、ゴールド92人、シルバー505人)、団体会員80団体（プレミアム1団体、特別25団体、維持54団体）である。
ア　「TOHAKU GALA」では、現在の本館がオープンしてから100周年となる2038年を見据えたビジョン「東京国立博物館 2038 ビジョン」の発表や、当館のアンバサダーである池坊専宗氏によるいけばなのご説明及び隈研吾氏による乾杯等を行なった。(ガラ参加者：152名)
イ　台東区主催「上野公園北部エリアまちづくりイベント」実施時には、通常開いていない北門、西門を来館者が入退場、黒門は退場できる運用とした。

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：Ａ | 5年度と比較し、会員数は更に増加した。5年度に引き続き賛助会寄附金額は1億円を超え、博物館支援者増加への取組として大きな成果を得られたと言える。特に、賛助会のイベントについて、職員との交流などの工夫も含めた会員向けの企画やトップセールスによる支援者獲得のための活動をより強化して実施したことが、個人会員、団体会員ともに増加につながったとみられる。また、引き続き企業等との連携によるイベント等を通じ、賛助会等の制度について認知度を高めることができた。 |

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>会員数は特別展の内容などにより増減の影響があるものの、寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに年々堅調に推移している。新型コロナウイルスの影響で、2、3年度には会員数に減少がみられたが、4年度以降年々増加している。博物館の支援基盤の充実のためにも、今後も引き続き支援者の増加に努める。 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1315B

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（4館共通）ア、イ、ウ、エ、(京都国立博物館）ア、イ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 課長　森考平<br>部長　尾野善裕 |

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「国立博物館メンバーズパス」について、館内でのチラシ配布、特典内容をウェブサイトにて案内する等、会員数の拡大に努めた。
イ　当館発行の「国立博物館メンバーズパス」について、近隣文化施設との相互割引等の特典を設定した。
ウ　株式会社三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトへ参加した。
　特別展「法然と極楽浄土」において、三菱商事株式会社関西支社との共同事業「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。また、ヤサカタクシー協力のもと、タクシー車両へのリアステッカー掲示による、春特集展示「巳づくしー干支を愛でるー」の広報活動を行った。
エ　企業等（岩谷産業、特定社会福祉法人暁会、NISSHA等）から、展覧会事業について各種支援（協賛・協力）を得た。

（京都国立博物館）
ア・一般社団法人清風会が行う鑑賞会（4回）、見学会（2回）での解説、会報（4回）の記事の執筆及び総会の開催に協力した。
・特別展「法然と極楽浄土」開催中に、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団によるシンポジウムの実施に協力した。

イ・ミュージアムパートナー制度では、新たに2名がパートナーに加わった。
・文化財保護基金では、企業等からグッズの売上の一部を寄付金として受け入れる取組を継続し、連携を図った。

【補足事項】
（4館共通）
イ　国立博物館メンバーズパス：407人

（京都国立博物館）
イ　団体　ゴールド：3、シルバー：2
　　個人　ゴールド：1、ブロンズ：3

タクシーのリアステッカー

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>企業等との連携では、「障がいのある方のための特別鑑賞会」の開催やタクシーのリアガラスへの展覧会広報ステッカーの掲出など、複数の企業との間で多面的な事業展開ができた。<br>「障がいのある方のための特別鑑賞会」については、障がいのある方がより安心して博物館に訪れることができるよう、休館日に実施しており、「ゆっくり見ることができてよかった」、「次回も参加したい」という意見があった。多くの参加者に、文化財をより深く知っていただく機会を設けることができたと考えられるので、今後も継続を予定している。<br>「ミュージアムパートナー」の会員数については、これまでの広報活動の甲斐もあり、着実に増えている。<br>「国立博物館メンバーズパス」の会員数については、5年度と同数程度を維持した。次年度以降、会員数を増加させるため、新たな広報活動にも取り組んでいきたい。<br>以上、年度計画を順調に達成しているため、全体としてはBと評価する。 |

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>企業との連携については、百貨店とのギフト開発、企業との共同事業「障がいのある方のための特別鑑賞会」、タクシー会社の協力を得て行ったリアステッカーでの展覧会広報等を行った。特に「障がいのある方のための特別鑑賞会」については、参加者のアンケート結果において、高評価を得ることができた。<br>博物館支援者については、「国立博物館メンバーズパス」の会員数が5年度と同数であったが、その他の支援者については増加傾向にあるため、全体としてはBと評価する。 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1315C

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（4館共通）ア、イ、ウ、エ、（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ

| 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 課長　平石憲良 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
（4館共通）
ア　賛助会入会案内チラシをイベントや講演会等で配布し、賛助会員の新規獲得を図った。
イ　賛助会員、奈良博メンバーシップカード会員を対象として、研究員による解説付き特別鑑賞会を実施した。
ウ　大手百貨店と連携してコラボレーションギフトを製作し、自己収入の増加と当館の認知度向上を図った。
エ　展覧会の共催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
○　X（旧Twitter）等で公式キャラクターを活用し、幅広いファン層の獲得に努めた。
（奈良国立博物館）
ア　協賛企業等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際し企業等からの協力金を得て、特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員182件（特別支援会員：4団体、特別会員8団体、一般会員（団体）：14団体、一般会員（個人）：156名）となり、全体で5年度より39件増加した。加えて、既存の団体会員のうち一般会員から特別会員へのランクアップが1件あった。
エ・地元商店街、地元企業、地域協議会及び地元自治体と連携してスタンプラリー等を実施することにより、当館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。
・企業と連携し、不用品の査定換金額が当館に寄附される取組を継続した。

【補足事項】
・三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの製作・販売を行った。商品カタログへの情報掲載を通じて広報を行い、当館の認知度向上につなげた。
・奈良マラソン実行委員会(奈良県ほか)と連携し、奈良マラソン2024ポスターに、当館の収蔵品である「伽藍神立像(走り大黒)」が4年度から引き続き起用されたことに加え、大会公式Tシャツも伽藍神立像をあしらったものとした。加えて、マラソン参加者に対しては当館窓口でビブス(ゼッケン)を提示することで、特集展示・名品展(平常展)の入館料割引を行い、奈良マラソン期間の前後には伽藍神立像を展示した。以上のことを通して地域連携を進め、誘客と認知度向上に努めた。
・公式キャラクター「ざんまいず」のぬいぐるみについて、これまでの「あおじし」と「しろぞー」に加えて、6年10月より「くじゃっぴ」、「ぎゅーたろ」、「はにわんこ」の販売を開始し、ミュージアムショップでの取扱の数を増やすとともにSNSでも積極的に広報活動を行った結果、順調に販売個数が増加し、収益確保及び知名度の向上につながった。

「ざんまいず」ぬいぐるみ

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | メンバーシップカード会員へ賛助会の特典を案内するなど、賛助会会員の増加に努めた結果、5年度比39件の増加につながった。既存の会員に対しては会費の使途報告や特別鑑賞会などを通じて賛助会の意義を訴えたことで1件のランクアップにつながった。<br>また、奈良マラソンやスタンプラリー協力等自治体、商店街等との連携事業を実施し、寄附パンフレットの制作等に取り組み寄附金の増加を図った。さらには、公式キャラクターグッズ種類の増加や大手百貨店と連携したコラボレーションギフトの継続等により、観覧料以外の収入を拡充させることができた。<br>以上により着実に計画を実施できていると判断し、B評価とした。 |

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

| 【中期計画に対する評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、特別鑑賞会の開催、刊行物の送付などを継続し、支援の継続を図った。特に6年度の正倉院展では、キャンパスメンバー向けの特別鑑賞会を初めて実施するなど、既存の会員向けにも積極的な取組を実施した。<br>また、地域連携として近隣商店街、地元企業や地方自治体等と協力し、自己収入の増加と博物館の認知度向上、新規顧客の獲得につなげたことから、中期計画を順調に遂行できていると判断し、B評価とした。 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1315D

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（４館共通）ア、イ、ウ、エ　　（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

| 担当部課 | 交流課<br>広報課<br>総務課 | 事業責任者 | 課長　高椋剛太<br>課長　野田智子<br>課長　為近雄一郎 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展示室の改修工事に伴い4月から12月まで特別展の開催がなく、従前どおりのサービス提供が難しいため、友の会及びメンバーズプレミアムパスの一般向け販売を一時中断した。国立博物館メンバーズパス等については、ウェブサイト等による広報を行い、引き続き利用者の拡大に努めた。
イ　友の会会員や賛助会個人会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、特集展示チラシ等を送付した。
ウ
・株式会社丸井グループ主催のコラボイベント「刀剣フェスティバル」に参加し、博物館や所蔵品のPRに努めた。
・ＪＲ九州や西日本鉄道等と連携し、福岡・九州の交通要所において特集展示や広報番組の告知を行った。
エ　協賛企業の協力を得て、当館の広報番組「太宰府・九博　散歩道」を制作し、合計6回、10月から3月に放映した。館所蔵の文化財の魅力や歴史に裏付けされる太宰府の魅力、展示情報を、地元の高校生、大学生の協力を得て紹介した。
（九州国立博物館）
ア　賛助会の広報に努め、新規会員の獲得を図った。6年度の新規加入は、個人7人であった。
イ「九州国立博物館を愛する会」や「太宰府観光協会」の会員を対象とした特別観覧会を実施した。
ウ　支援団体からの財政的な支援により、空港や主要な駅へ広告を掲出することができた。
エ
・太宰府観光協会ほかとの共催により「太宰府門前真舞祭」（参加者数：100人）を開催し、全国55チームの演舞が披露された。
・秋田県福岡事務所との共催により「ハチ公生誕100周年秋田県観光・物産展」を開催、秋田犬の展示、観光物産展、講座「ハチ公のことをもっと学ぼう」を実施した。
・太宰府天満宮や太宰府観光協会と連携し、スマートフォンを利用した「デジタルスタンプラリー」を実施し、参加者の太宰府周遊促進を図った。（5月～7月実施、参加者数：2,006人）
・筑紫地区の写真部がある高校と連携し、写真撮影・パネル展示イベントを実施した。（6校、参加者数：約50人）
・「九州国立博物館を愛する会」との共催により、筑紫地区小学校4～6年生400人の参加による「第9回つくし郷土かるた大会」を開催した。
・佐賀県ほかとの共催により「吉野ヶ里 Day in 九博」を開催、勾玉づくり体験ほかワークショップ、発掘調査・情報発信パネル展示、ビデオ放映、マスコットキャラクター「ひみか」のグリーティングを実施した。
・太宰府天満宮及び宮地嶽神社との共催により、小中高生による書道優秀作品展をそれぞれ実施した。
・長崎県との共催により「特集展示『モンゴル襲来の痕跡を探る』関連パネル展」及びシンポジウム「モンゴル襲来と海の路－元の軍船の航路を探る－」（参加者数：120人）を開催した。
・「筑紫地区中学校美術教育研究会」との共催により「筑紫地区中学校美術展」を開催、筑紫地区5市25校の生徒が美術科授業で制作した作品を展示、併せて美術担当教員間の相互交流を深めた。
・九州高等学校文化連盟ほかとの共催により「九州高等学校総合文化祭 福岡大会書道部門 生徒交流会」を開催し、九州各県の高等学校書道部160人の生徒が交流を深めた。
・ふくおか県芸術文化祭福岡県実行委員会との共催による「ふくおか県芸術文化祭2024表彰式」を開催、地域文化功労者、障がい児者美術展、シニア美術展の各表彰式及びギャラリートークを実施した。
・九州産業大学及び同美術館との共催による「九州国立博物館で、博物館浴しよう！」（参加者数：25人）を開催、参加した中高校生が展示鑑賞前後の心身における科学的データ測定を行った。

【補足事項】
ア　賛助会員（特別会員（個人）5人、維持会員（個人）28人、プレミアム会員（団体）1団体、特別会員（団体）2団体、維持会員（団体）15団体）

| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：　B | 【判定根拠、課題と対応】<br>工事により特別展の開催回数が減少したため、一部の会員制度については販売を一時中断したが、ウェブサイトでの周知や、窓口での丁寧な説明により、大きなトラブル無く対応することができた。その他については、ウェブサイト、リーフレット、チラシ等を用いて制度の広報に注力し、会員制度の拡充を図った。さらに、企業や地域と連携した広報活動やイベントを実施し年度計画を達成した。今後も、広報の充実と支援者増加を図る。 |
|---|---|

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>賛助会制度や各会員制度の広報、企業とのコラボイベント参加など、企業との連携や会員制度の活性化等による博物館支援者の増加を図る取り組みを実施し、中期計画を順調に進めており、今後も活性化を図りたい。 |
|---|---|

【書式A】　施設名 皇居三の丸尚蔵館　処理番号 1315I

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 | | |
|---|---|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組 | | |
| 【年度計画】<br>・Ⅰ-1-(3)-①-5)（皇居三の丸尚蔵館）　ア、イ | | | |
| 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　井手　真二 |

【実績・成果】
（皇居三の丸尚蔵館）
ア
・国立文化財機構寄附ポータルサイト及び当館ウェブサイトでの寄附案内並びに館内設置の募金箱により当館支援者の増加を図った。(6年度 寄附額 6,136,000円、募金額2,130,824円)
・当館の概要パンフレットを新たに作成し、寄附の案内等を掲載した。

イ
・丸の内地区への都心型MICE誘致促進を目的とした組織であるDMO東京丸の内に加入し、丸の内エリアの企業やホテル、旅行会社等との連携を推進した。DMO東京丸の内では、国宝「唐獅子図屏風」の高精細複製品をMICE利用できることを周知するために会員向けの案内へ記事を掲載するなど連携を深めた。
・展覧会会期はじめに、報道内覧会及び関係者や近隣の美術館・博物館、大使館、ホテル、観光施設、報道関係者を招いた特別内覧会を実施し、当館の支援者の増加に向けた取り組みを実施した。内覧会では、会期毎の展覧会図録を配布した。
・千代田区観光協会に加盟し、地域の文化施設や企業等との連携を図った。
・展覧会「百花ひらく」では、東京国立近代美術館と連携した入館チケットを制作・販売し、相互誘客を図った。
（7年3月11日～5月6日まで販売。3月31日までに大人384名、大学生19名が利用した。）
・大手旅行代理店と連携し、通訳案内士に向けた解説研修会を実施した。

東京国立近代美術館とのセット券販売ページ

【補足事項】

| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>当初計画どおり寄附や募金の推進で実績をあげた。また、東京国立近代美術館と連携チケットを開発するなど、近隣施設と連携し、当館の支援者の輪を広げる活動を行った。 |
|---|---|

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>近隣施設と連携を図り、当館の支援者増加に向けた取組を実施した。中期計画を着実に遂行することができたと判断し、Ｂと評価した。<br>7年度も、8年度の全面開館に向けて本格的な会員制度や寄附制度の導入を図るべく、着実に企業や支援者との連携構築への取り組みを実施していく。 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1321A

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実<br>1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通）
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（東京国立博物館）ア、イ、ウ

| 担当部課 | 学芸研究部博物館情報課 | 事業責任者 | 課長　村田良二 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)
（４館共通）
・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム ColBase」への掲載情報充実と画像追加を行った（約 4,006 枚追加）。さらに、「作品種別」の整備を継続し、検索に利用できるようにした。あわせて、皇居三の丸尚蔵館の収蔵品についても新規登録を進めた。
・「e 国宝」において、既存解説文の見直しを継続して行った（解説文更新 311 件）。
・Ⅰ-1-(3)-②-2)
（東京国立博物館）
ア
・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、8,452 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像検索システムの既存データ 2,141 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。
・洋古書 17 冊（6,202 カット）のデジタル撮影を行い、デジタルライブラリーで公開した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。（入館者 3,433 人）
・貴重書用保存箱を 132 箱作成し、29 冊の補修を実施した。
・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて毎月発信した。
イ
・東京国立博物館の列品を収載している図書について、列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を、継続して実施した。
・protoDB における文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・国立文化財機構内各機関発行雑誌に加えて収載範囲を広げ、一般図書含めて掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報を 7,122 件作成した。
・国立国会図書館のレファレンス協同データベースにデータを蓄積・公開することにより、レファレンスにおいても対非来館者サービスの拡充と広報に資することができた。（一般公開 43 件、新規登録 86 件、被参照数 329,898 件 ）
・外部からの新規撮影依頼 3 件に対応して画像を提供し、展示や研究、出版に貢献した。
・当館 1 件・他館 2 件の特別企画展示等用に貴重書を貸与し、展示の充実に貢献した。
・ILL（図書館間相互利用）サービスによる文献複写サービスの受付、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。
・Wikipedia エディタソンに協力し、資料館の資料や情報の活用の仕方の普及および外部文化財情報の充実にも貢献した。
・図書館総合展の専門図書館のコーナーに参加し、広報に努めた。
・当館の月齢講演会で資料館の蔵書や活用方法、活動の紹介を行い、来館者への資料館認知度向上に努めた。（参加者 250 人）
ウ
・無料入構利用者のトイレ動線を２F から１F に変更し、バリアフリー化を推進した。
・資料の保存環境改善のため、環境調査の実施や環境改善と維持に必要機器を導入し、環境の向上を図った。
・主に館内の研究職員向けに開始した時間外利用サービスの更なる利便性向上のため、セキュリティを考慮しつつ利用可能書庫の範囲を拡大する電子錠化等の工事を行った。
・著作権法の改正により可能となった文献複写のメール送信サービスに対応するため、特定図書館への申請等準備を進めた。
・国内外のミュージアムライブラリーとの継続的な図録等の交換、海外のアートライブラリー団体見学対応により、交流を深めた。
・外部機関から寄せられる資料保存やデジタル化、保存環境の整備の相談に対応した。

【補足事項】
2)（東京国立博物館）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ア | 新規受入図書 | 5,624 冊 | 既存図書の遡及入力 | 54 冊 |
| | 逐次刊行物の新規受入 | 2,828 冊 | 逐次刊行物の遡及入力 | 376 冊 |
| イ | 当館開催展覧会カタログ | 397 件 | 他館開催展覧会カタログ | 6,605 件 |
| | 当館刊行図書 | 99 件 | 当館・機構内他館刊行雑誌 | 21 件 |

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 資料収集整理の年度目標数と公開、レファレンス協同データベースの事例登録と公開、デジタルライブラリー用の画像撮影と公開、収蔵品情報と文献情報の紐づけなどは目標を達成し、閲覧室の各サービス利用数もほぼ前年度を上回った。交換図書やILL、Wikipediaのイベント、見学会対応、当館月齢講演会など外部との協力・連携、広報も進め、利用促進につなげた。利用者の動線変更を行ってバリアフリー化も向上し、当館研究者向けの時間外利用のための環境整備で研究支援も強化した。 |

<table>
<tr><td colspan="2">【中期計画記載事項】<br>1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。<br>2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。</td></tr>
<tr><td>【中期計画に対する評価】<br>評定：B</td><td>【判定根拠、課題と対応】他館との図書交換、内外からの寄贈、研究員からの購入希望に応えて蔵書の充実を図り、利用しやすく整理するとともに新着資料や特別展関連文献に関する情報発信を行った。また利用と長期保存の観点から閲覧室・書庫環境の改善に努めた。国内外からのメールによるレファレンスサービスやレファレンス協同データベースへの登録・公開や洋古書のデジタルライブラリーへの登録など非来館サービスも強化に努め、館内および他館への展示用貸与など貴重書活用の場を広げた。以上より、順調に中期計画を進めることができたと判断し、B評価とした。</td></tr>
</table>

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実<br>1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通)、(京都国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（京都国立博物館）ア

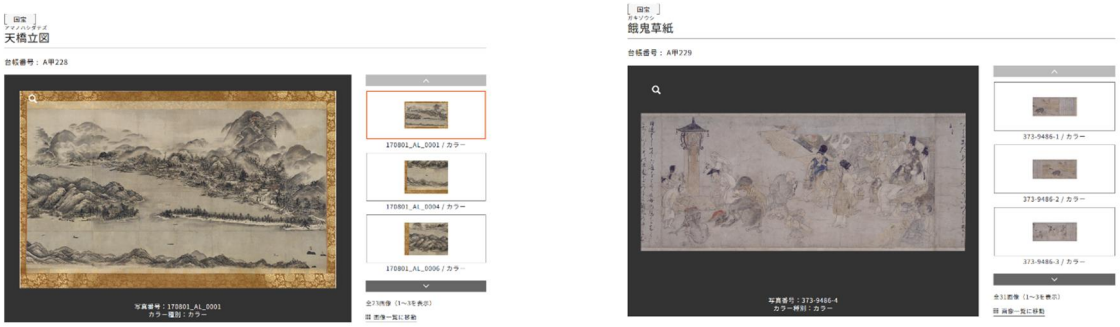
| 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 列品管理室長　永島明子 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)
（４館共通）
・ColBase の「種別」に対応するため、当館の収蔵品管理システムにおいて、6,834 件の作品に対して「種別」の情報を付与した。
・e 国宝に掲載中の作品解説について、それぞれの言語を確認し、必要に応じて修正、国内外に向けた情報発信の強化を図った。

（京都国立博物館）
ア
・　館蔵品データベースにデジタル画像を1,638枚追加し、情報量の充実を図った。
・　館蔵品データベースに公開している18,129枚の画像を長辺3,000pixelに更新した。
イ　5年度に引き続き、オンラインでの画像利用申請について検討した。

・Ⅰ-1-(3)-②-2)
（京都国立博物館）
ア　調査、研究、教育等に資すため、図書1,783冊、逐次刊行物950冊を収集し、蔵書管理システムに登録した。

【補足事項】
（京都公立博物館）ア



長辺3,000pixelに更新した画像　左：天橋立図　右：餓鬼草紙

| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>館蔵品データベース並びにColBase、e国宝の情報について充実化を図るとともに、情報発信の強化に努めた。また、画像利用申請の英語ページからの問い合わせについて、ページを公開した5年度と比較して問い合わせ数が増加しており、多言語での問い合わせ窓口として有効的に機能できていると言える。オンラインによる申請の導入により、問い合わせ数の更なる増加が見込まれるが、これ以上の窓口拡充や業務量の増加には対応が厳しいため、問い合わせへの対応方法については、現状の方式を継続し、オンラインによる申請の導入を見送ることとした。業務の実態に合わせた画像利用申請の方式について検討することができ年度計画を順調に達成しているため、B評定とした。 |
|---|---|

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。

| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>デジタル画像を館蔵品データベースへ1,638枚追加し、5年度に引き続き作品情報を充実させた。さらに、ColBase対応においては「種別」の情報を整備するとともに、e国宝対応においても、作品情報の整備に努めた。また、館蔵品データベースにおいては、PCやスマートフォン等、館蔵品データベースを閲覧する端末性能の向上に対応するため、18,129枚の画像を長辺3,000pixelの画像へと更新した。6年度においても公開データの充実、強化に努めており、以上の点からB評定とした。 |
|---|---|

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1321C

| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実<br>1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通)、(奈良国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（奈良国立博物館）ア

| 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 資料室長　宮崎幹子 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)
（４館共通）
収蔵品データベースや画像データベースにおいて掲載情報充実に努め、積極的に公開した。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図ることを目的に、デジタル写真撮影やフィルムのデジタル化などにより作成した画像を写真情報システム・画像データベースへ登録し、公開した。
イ　ウェブサイト上のデータベースで公開している画像について、非商業目的での外部利用には引き続き無償ダウンロードで対応した。
・Ⅰ-1-(3)-②-2)
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、図書情報システムに和書・漢籍・洋書・逐次刊行物を新たに登録し、これらの資料と上記の画像データデータベースを仏教美術資料研究センターにおいて引き続き公開した。

【補足事項】
デジタル写真撮影や既存フィルムのスキャニングに加えて、文化財の附属品や図書室所管の歴史資料（書簡類）について外部委託によりデジタル写真撮影を行い、学術資料のデジタル化をさらに進展させた。
また、新しいウェブサイト「正倉院展用語解説」を 6 年 10 月に開設した。このサイトは、毎秋奈良国立博物館で開催される正倉院展の図録に掲載された「用語解説」全 1,000 件を一部画像や英語解説付きで公開するデータベースである。当館で開催する正倉院展の図録には、昭和 57 年（1982）の第 34 回より、宝物に用いられた材質や技法、関連する事項などを詳しく紹介する用語解説を掲載してきた。英語版用語解説は、英語版図録の刊行にともなって平成 12 年（2000）から令和 2 年（2020）（第 52 回から第 74 回正倉院展）までの間に製作された。正倉院宝物に関する調査研究の進展を反映させて、用語解説の質量の充実に努めてきたが、図録への掲載はその年に出陳される宝物に関わるものを中心に選定されおり、これまで全体を通覧する仕組みがなかった。そこで過去の用語解説をまとめ、検索が可能なデータベースとして 2 年弱をかけて構築・公開した。新しいデータベースの公開は、当館としては実に 10 年ぶりのことであり、ウェブサイト公開以来 5 か月ほどで、国内外から 4 万件のアクセスがあった。

ウェブサイト「正倉院展用語解説」

| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：S | 【判定根拠、課題と対応】<br>画像の登録及び公開件数について、業務フローや整理方法などを適宜見直し、5年度に続いて増加させることができた。また、新たなウェブサイトの公開により、文化財にかかる情報公開を質的に進展させ、アクセス数も伸ばすことができた。類似のデータベースは国内外でも例がなく、正倉院宝物に関する研究や理解促進に貢献できる本データベースの公開は非常に高く評価できるため、S評価とした。 |
|---|---|

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

| 【中期計画に対する評価】<br>評定：S | 【判定根拠、課題と対応】<br>文化財写真については、新規のデジタル写真撮影・フィルムデジタル化、これらの登録と公開などを継続的に増加させることができている。また、10年ぶりに新たなデータベースの公開を実施し、多くのアクセスが得られ、正倉院宝物に関する研究や理解促進に貢献できた。以上のとおり、本中期計画の4年目として非常に高く評価できる成果を上げたことから、S評価とした。 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1321D

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実<br>1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開 |

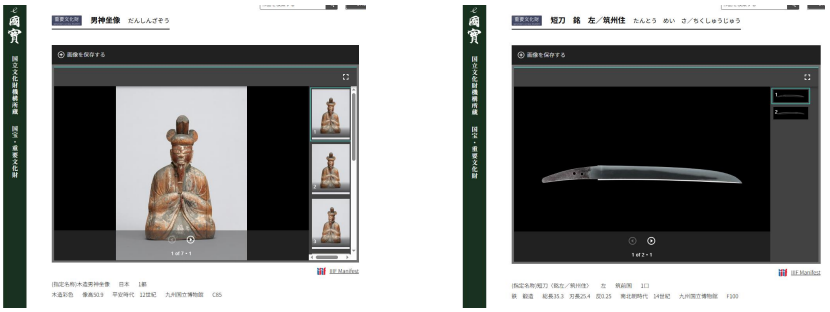
【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（4館共通）　（九州国立博物館）ア、イ、
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（九州国立博物館）ア

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 学芸部文化財課 | 事業責任者 | 課長　野尻忠 |

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-1)
（4館共通）
・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム（ColBase)」に新収品を含むデータ452件を追加した。
・「e国宝」に5年度新収品（重要文化財）のデータ2件を公開した。また、新撮した高精細画像を14点公開した（差し替えを含む)。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品データベースに、新収品を含む452件の日本語データと1,000点の画像、英語・中国語・韓国語データ52件を追加した。公開中の2,927件の所蔵品について、3ヶ月先までの展示予定と併せて文化財の情報を発信した。また、画像登録機能を改良し、7年度以降により多くの画像を公開するための環境を整えた。
イ　対馬宗家文書データベースは、引き続き公開運用を続けた。

Ⅰ-1-(3)-②-2)
（九州国立博物館）
ア
・画像管理システムに3,101点の画像を追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データとを連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が活用しやすい環境づくりに寄与した。
・ウェブサイトで公開中の画像検索システムに1,814点の画像を新規に追加した。活用可能な画像の一覧を公開することで、文化財画像の活用に係るサービスを向上した。
・新規に図書501点、雑誌1,144点、図録・報告書1,508点、メディア8点を購入又は受贈し、蔵書管理システムに登載した。また、利便性並びに管理効率向上のため、引き続き図書資料の再分類と装備修正を行った。

【補足事項】




「e 国宝」に追加した 5 年度新収品データ

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>ColBase及び収蔵品データベースで収蔵品データ及び画像を追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。蔵書管理システムへの蔵書登録を継続的に行った。以上の成果から、年度計画を達成し、B評定とした。 |

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>ColBase及び収蔵品データベースにおいて文化財の情報を公開した。中期計画に基づきデータや画像の公開件数を継続して増やしている。<br>図書目録整備及び画像管理システムの内容充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。以上の成果から、中期計画を順調に推進し、B評定とした。 |

【書式A】　施設名 皇居三の丸尚蔵館　処理番号 1321I

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実<br>2)資料の収集と公開 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（皇居三の丸尚蔵館）ア

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 管理・情報課 | 事業責任者 | 管理・情報課長　五味聖 |

【実績・成果】
（皇居三の丸尚蔵館）
ア　6年度は、343件5,336カットを新規撮影し、すべてのデジタル画像を収蔵品管理システムに登録した。また、公開情報を整備し、ウェブサイトの収蔵品検索対象に新たに78件の収蔵品情報と著作権上問題ない収蔵品の画像1409カットを追加し、当館のウェブサイトで公開した。

ウェブサイトの公開ページ

【補足事項】

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>撮影を計画的に進め、近現代の作品を収蔵する当館の特徴をふまえ、著作権上問題ないことを確認しながら、ウェブサイトで検索できる収蔵品情報（テキスト情報・画像情報）を計画どおりに充実させた。以上の理由から年度計画を達成できたと判断し、Bと評価した。 |

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。

| | |
|---|---|
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>撮影を計画的に進め、近現代の作品を収蔵する当館の特徴を踏まえ、著作権上問題ないことを確認しながら、ウェブサイトで検索できる収蔵品情報（テキスト情報・画像情報）を充実させることができた。以上の理由から中期計画を順調に遂行することができていると判断し、Bと評価した。<br>なお、7年度は工事により撮影ができない期間があるほか、収蔵品検索を含む公式ウェブサイトの更改が予定されているが、収蔵品情報の公開になるべく影響しないように中期計画を進める。 |

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 1323H

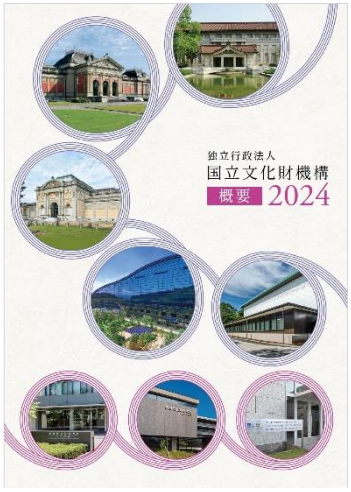
| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実<br>3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1（機構本部）ア、イ

| 担当部課 | 本部事務局総務企画課 | 事業責任者 | 課長　奥田晋三 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
（機構本部）
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和6年度』（日本語版・英語版）の内容を大幅にリニューアルするとともに、PDF版を機構本部ウェブサイト(https://www.nich.go.jp/)に掲載した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和5年度』を7年2月に発行した。
イ
・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。

【補足事項】
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和6年度』:
日本語版1,550部、英語版390部発行
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和5年度』:169部発行



リニューアルした機構概要パンフレット

| 【評価指数】 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ｳｪﾌﾞｻｲﾄのｱｸｾｽ件数 | 524,744 | 298,703 | A | | 302,279 | 409,102 | 379,623 | 422,016 |

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
文化財の活用や防災などを含めた当機構の活動をより分かりやすく提示できるよう、6年度の概要の内容を一新し、関係者や視察者に配布するとともにウェブサイトにも掲載し、当機構の活動を幅広く周知した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
概要のリニューアルやウェブサイトでの最新の情報の掲出などの広報展開を行った。ウェブサイトのアクセス件数も順調に伸びており、引き続き広く機構の活動の周知に努める。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323A

| | |
|---|---|
| 中項目 | 1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実<br>3)-1 広報計画の策定と情報提供　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動<br>3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（5館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（5館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（5館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ、ウ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 広報室<br>総務部総務課 | 事業責任者 | 室長　松嶋雅人<br>課長　竹之内勝典 |

【実績・成果】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
（5館共通）
ア　ウェブサイトで年間の特別展・特集のスケジュールや名品展示予定を公開した。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』（年4回発行）を制作し、総合文化展広報に努めた。主な事業についてプレスリリースの作成・配信を行うとともに、SNS広告を出稿した。「博物館でアジアの旅」ではJ-WAVEによるコンサートを企画し、ライブ音源を展覧会情報とともに放送した。7年4月の「東博コレクション展」への名称変更に向け広報の準備を進めた。
イ　SNSでは特集ごとにショート動画を制作・配信し、若年層へのアプローチを図った。「博物館でアジアの旅」では展示作品をモチーフとした「トーハクくん」「ユリノキちゃん」のアレンジイラストを制作し広報活用した。特別展「はにわ」では群馬県マスコット「ぐんまちゃん」とともに来館者へのグリーティングを行った。
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
（5館共通）
ア　平常展・特別展ともにテレビ・新聞・雑誌をはじめとするマスコミからの撮影・取材対応を行った。またJR上野駅広告設備「J・ADビジョン」（デジタルサイネージ）、羽田空港等に広告出稿を継続した。東京モノレール羽田空港第3ターミナル駅電飾看板については効果測定を実施し、有効なインバウンド広報について検討した。
（東京国立博物館）
ア　特別展等の報道発表会を4回、報道内覧会を6回実施した。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイトへの情報掲載を継続して行った。上野ミュージアムウィーク時の専用チラシ配布やWebサイトでの展覧会やイベントの周知を行った。
ウ　モデル入りの貸出用オフィシャル素材の撮影を2回（静止画・動画）実施した。
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3
（5館共通）
ア　ウェブサイト、スマートフォンサイトによる情報提供を行った。
（東京国立博物館）
ア　「博物館ニュース」リニューアル1年目として、展示予定のほか仕事紹介やコラムなどを充実させた。HTML専用ページも設け、スマートフォン・タブレット等でも読みやすくなるよう工夫した。
イ　展示にあわせ研究員ブログによる作品紹介を行った。
ウ　特別展・特集や企画の案内、展示替えにあわせた作品紹介を行ったほか、開館時間や混雑状況など来館にあたって必要な情報を適時発信した。9月にはInstagramキャンペーンを実施し、SNS利用者にクイズへの回答を促すことで、フォロワー数の増加を図った。メールマガジンを26回配信したほか、メールマガジンに関するアンケートを実施した。

【補足事項】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（東京国立博物館）
ウ　SNS等で人物入りの広報素材を活用することでアクセス数の増加が見られた。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3(東京国立博物館)
ウ　X（旧Twitter）：フォロワー185,794件(5年度163,888件)。Facebook：いいね！38,457件(5年度37,303件)。Instagram:フォロワー71,912件(5年度57,598件)。YouTubeチャンネル：登録者数41,716件（5年度35,261件)。

新規に撮影したモデル入り広報画像

| 【評価指数】 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ｳｪﾌﾞｻｲﾄのｱｸｾｽ件数 | 16,942,183件 | 7,277,091件 | A | | 7,021,923 | 11,382,143 | 10,569,749 | 10,377,906 |

| | |
|---|---|
| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：B | SNSでは動画や人物入りの素材を積極的に活用する等、アクセス件数の増加に努めた。また駅広告の効果測定やメールマガジンのアンケートを実施し、広報手段の見直しを行った。以上より、発信方法について工夫を重ねながら、より効果的な広報手段について検討できたため、B評価とした。 |
| 【中期計画記載事項】<br>展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。<br>ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。 | |
| 【中期計画に対する評価】<br>評定：B | 【判定根拠、課題と対応】<br>各種アンケートを実施し、従来の広報手段の見直しを行うとともに、主にSNSやウェブによる、時代のニーズに応じた発信を行った。またメディアからの取材・撮影も積極的に対応し、幅広い媒体での広報に努めた。以上、中期計画4年目として、順調に計画を進めることができた。 |

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323B

| | |
|---|---|
| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
| 事業名 | （３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実<br>3)-1広報計画の策定と情報提供　3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動<br>3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（５館共通）ア、(京都国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（５館共通）ア、(京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（５館共通）ア、(京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 課長　森考平<br>企画室長　羽田聡 |

【実績・成果】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
（5館共通）
ア 年間スケジュールの配布（6年度分を5,000部増刷、4言語にてウェブサイト上で公開）及び製作準備（7年度分、15,000部）を行った。
（京都国立博物館）
ア 豊臣秀次公430回忌 特集展示「豊臣秀次と瑞泉寺」・上田コレクション収蔵記念 特集展示「密教図像の美」共通チラシ、新春特集展示「巳づくし―干支を愛でる―」チラシ、特集展示「新時代の山城鍛冶―三品派と堀川派―」・特別公開「名刀再臨 ―時代を超える優品たち―」共通チラシをはじめ、各種イベントのポスター、チラシの製作・配布を行った。
イ 5年度発行の英語版に引き続き、6年度は「京都国立博物館ハンドブック」中国語版を発行した。
ウ 公式キャラクター・PR大使「トラりん」を活用して展覧会やイベントに関する広報活動を行うとともに、祇園祭への参加や京都・観光文化検定試験（通称：京都検定）の応援活動など、地域密着型の活動も行った。
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
（5館共通）
ア
・特別展「雪舟伝説―「画聖（カリスマ)」の誕生―」では、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞と連携し、紙面広告やテレビスポット広告等による広報を実施した。
・特別展「法然と極楽浄土」では、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿、読売新聞社と連携し、紙面広告やテレビとラジオでのスポット広告等の広報を行った。
・新春特集展示「巳づくし―干支を愛でる―」では、京都駅への交通広告掲出を行った。
・特集展示「新時代の山城鍛冶―三品派と堀川派―」と京都駅・京阪電車主要4駅への交通広告出稿と、FacebookとInstagramにてウェブ広告を掲出した。
・特別公開「名刀再臨 ―時代を超える優品たち―」では、京都駅・京阪電車主要4駅への交通広告出稿とYahoo!JAPANにてウェブ広告を掲出した。

（京都国立博物館）
ア
・特別展・名品ギャラリーの記者発表会を7回、記者内覧会を5回実施した。記者発表会のうち1回は東京で実施した。また、科学調査報告の記者発表会を1回実施した。
イ
・祇園祭の際にうちわ広告を製作し、四条大橋や京都駅等での配布を行った。
ウ 京都市内4美術館・博物館で組織する「京都市内4館連携協力協議会(京都ミュージアムズ・フォー)」での連携協力として、合同パンフレットを作成し、相互割引、連携講座及び4館を巡るスタンプラリーを実施した。

エ　特別展・特集展示・特別公開の開催時に、近隣施設等へ展覧会チラシ・ポスターの配布等広報協力を依頼した。

・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3
（5館共通）
ア ウェブサイトのアクセス件数は、4月1日から11月30日の期間で1,573,710件であった。しかし、アクセス数の計測を維持するために必要な設定が12月で無効となってしまったため、12月～3月は計測できていない。(※前年度の同じ期間におけるアクセス件数は1,456,835件。本年はこの数値を目標値として評定を検討する)

（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』(222～225号)、『Kyoto National Museum Newsletter』(161～164号)を発行し、ウェブサイトに掲載した。
イ　自宅で楽しめるコンテンツとして、「鑑賞ガイド」を3件、「博物館ディクショナリー」を6件、「ぬりえ」を1件、ウェブサイトに掲載した。

ウ 収蔵品の貸与情報をウェブサイトの「館外での作品公開」ページに43件公開した。
エ 当館公式X（旧Twitter）・Instagram、公式キャラクター「トラりん」のブログ・X（旧Twitter）・フェイスブックに加え、「トラりん」のYouTubeチャンネルを効果的に活用して、積極的な情報発信を行った。メールマガジンを月1度の12回配信した（217号～228号）。各SNSを活用し、X（旧Twitter）・Instagram・YouTube・Facebookで展示風景や展示に関するトラりんの動画を公開するなどした。
オ ウェブアクセシビリティ方針を公開。対応を進め、JIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠した。

【補足事項】
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
（京都国立博物館）
ア 「京博のお正月 2024」ポスター・チラシでは、新春特集展示「辰づくし―干支を愛でる―」を中心に、各種イベントや同時開催の展覧会情報を紹介することができた。
ウ 祇園祭函谷鉾の稚児人形・嘉多丸君を修理したご縁から、函谷鉾の各種祭事に参加し、地域に密着した活動を行った。また、京都検定が 20 周年の節目を迎えたことを記念するコラボレーション事業として、彌榮自動車、京都タワー、大丸京都店と連携し、検定普及・受験促進の活動を行った。

京都検定 20 周年記念の特別仕様車とともに広報撮影するトラりん

| 【定量的評価】項目 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウェブサイトのアクセス件数 | 1,573,710件〔4/1～11/30の数値〕 | 1,661,736件〔※1,456,835件〕 | B | | 3,480,100 | 3,514,043 | 1,948,061 | 2,262,584 |

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 定期刊行物や年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を効果的に行うことができた。うちわ広告や近隣施設等へ展覧会チラシ・ポスターの配布等、近隣地域と連携した広報活動の充実を図ることができた。アクセス件数が通年で計測できなかったが、前年度の同じ期間における件数を上回っているため、評価はBとした。 |

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

| 【中期計画に対する評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 展覧会に応じて多様な広報展開を実施することができたため、中期計画を順調に遂行できたと言える。7年度以降も引き続き、ウェブサイトをはじめとする各種広報媒体を活用し、積極的な広報活動を図る。 |

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1323C

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実<br>3)-1広報計画の策定と情報提供　3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動<br>3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（５館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（５館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（５館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ

| 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 課長　平石憲良<br>情報サービス室長　北澤菜月 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
1（５館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布（WEB公開を含む）を行った。
（奈良国立博物館）
ア　・広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行った（『奈良国立博物館だより』4回分、特別展・特別陳列のポスター・チラシ6回分）。
・タレントの笑い飯・哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）に奈良博名誉サポーターとして活動してもらい、テレビやラジオ等で当館のPRを行った。
イ　・館のSNSで当館公式キャラクター「ざんまいず」を積極的に活用し、館のPRと新たな客層の開拓を目指した。
ウ　ブライダルの前撮り撮影やカーラリーのスタート地点、なら燈花会など様々なイベントの場所として仏像館西側、茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供し、当館の魅力を伝え、認知度を向上させることに努めた。
2（５館共通）
ア　読売新聞社・NHK等と連携し、紙面公告・特集記事やテレビスポット広告等の広報活動を展開した。
（奈良国立博物館）
ア　奈良県中部の社寺が主催するスタンプラリーや大阪観光局が主催する周遊パスに参画し、地域回遊性を向上させた。
イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに、原稿・画像提供依頼や誌面作成に積極的に協力した。
ウ　・国土交通省の後援するイベントへの関野ホールの貸出や、奈良県が主催する伝統行事「若草山焼き」への敷地提供の協力など、官公庁との連携・協力を推進した。
・地元商店街と連携してチラシ掲示やポスター配布などの広報活動を展開した。
・特別展の無料観覧券を近隣の商店街等に配布した。
エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布等、広報協力を依頼した。
3（５館共通）
ア　ウェブサイトによる情報公開を行い、報道発表と合わせた迅速な情報提供に努めるなど、ウェブサイトのアクセス件数の向上に努めた。
（奈良国立博物館）
ア　特別展・特別陳列・名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った（年4回）。
イ　名品展や特別展、イベント情報等をウェブサイト及びX（旧Twitter）に掲載し、来館者数増加に繋げた。公式キャラクター「ざんまいず」を活用した情報発信を実施するとともに、「ざんまいず」自体の認知度向上のため、京都国立博物館公式キャラクター「トラりん」と連携したXの投稿や「ざんまいず」のぬいぐるみの種類を増やす等の取組を展開することで、新たな来館者の獲得とフォロワー数の増加に努めた。
ウ　「奈良国立博物館だより」のPDF版をウェブサイトに掲載し公開した。

【補足事項】

| 【定量的評価】項目 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウェブサイトのアクセス件数 | 2,082,768件 | 1,331,550件 | A | | 1,082,864 | 1,236,917 | 1,129,746 | 1,374,092 |

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
公式キャラクター「ざんまいず」等を用いた情報発信を積極的に行うとともに、「ざんまいず」のフォトコンテストの実施やグッズ種類の増加により、当館のPRに繋げることができた。
また、情報発信の基盤となるウェブサイトを中心に、広報活動を滞りなく進めることができた。運用上の改善をはかるとともに、アクセス件数の向上を図った。空海展への閲覧が多数あったことなどにより、アクセス件数が大幅に増加したため、Ａ評価とする。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS 等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
5年度から引き続きタレントとの連携、公式キャラクターを用いた広報などの取組を継続し、積極的な広報活動を行っていることから、中期計画を順調に遂行できていると判断し、Ｂ評価とする。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1323D

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実<br>3)-1広報計画の策定と情報提供、3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動、<br>3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（５館共通）ア　（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（５館共通）ア　（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（５館共通）ア　（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

| 担当部課 | 学芸部企画課<br>広報課<br>総務課 | 事業責任者 | 課長　伊藤信二<br>課長　野田智子<br>課長　為近雄一郎 |
|---|---|---|---|

【実績・成果】
3)-1
（５館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布（ウェブサイト公開を含む。）を行った。
（九州国立博物館）
ア　特別展ごとにポスター、チラシ等を製作した。
イ　展示リストのウェブデータベースの整備を継続した。
ウ　特集展示ごとにポスター、チラシ等を製作するとともに、X（旧Twitter）で随時、展示中の文化財の見所を紹介した。
エ
・レストラン・カフェと連携し展示にちなんだコラボメニューを提供しSNSで相互に発信した。
・株式会社丸井グループ主催のコラボイベント「刀剣フェスティバル」に参加し、コラボ商品の監修等を行うとともに、博物館や所蔵品のPRに努めた。
3)-2
（５館共通）
福岡空港・JR九州・西日本鉄道・観光案内所・ホテル等と連携し、ポスターやチラシなどによる広報を継続した。
（九州国立博物館）
ア
・7年に開館20周年を迎えるにあたり実施する各種記念事業の概要及び記念ロゴマークについての記者発表を行い、マスコミへの情報提供を行った。(10月22日)
・記念事業の記者発表に併せ、特別展「はにわ」の概要説明及び特集展示「人吉球磨の玉手箱」の内覧会を行うとともに、レストランとのコラボメニューの試食会を実施し、PRに努めた。
イ　太宰府観光協会と連携して、特別展や特集展の参道フラッグを設置し、太宰府天満宮への観光客に展覧会の告知を行った。
ウ
・九州観光推進機構等のウェブサイトにおいて多言語で情報発信を行うほか、当館ウェブサイトやブログ、Facebookでも4言語（日、英、中、韓）での情報発信を継続した。
・香港・台湾の訪日メディア「ラーチーゴー」のライターによるＰＲ及びメディア内での情報発信を行った。
エ
・広報番組「太宰府・九博　散歩道」において、太宰府地区の大学生や高校生をレポーターに起用し、若者の視点で文化財の魅力や太宰府の歴史の魅力を紹介した。
・博多祇園山笠振興会の協力により、エントランスホールに博多の伝統的な神事である博多祇園山笠の飾り山笠を展示した。
・八女福島の燈籠人形公演を行った。
・ユネスコ無形文化財遺産の豊前市「感応楽」の実演を行った。
3)-3
（５館共通）
ア　展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、X（旧Twitter）にて駐車場空き情報を随時提供するなど、利用者の利便性の向上に努めた。
（九州国立博物館）
ア　スマートフォンでの閲覧に適したレイアウトによるウェブサイトの公開を引き続き行い、利用者の利便性に配慮した情報発信に努めた。
イ　4言語（日、英、中、韓）による情報発信を継続して行った。
ウ　「季刊情報誌アジアージュ」では、特別展や特集展示に加え、当館が所蔵するイチオシの文化財をわかりやすく紹介した。また、博物館で働く職員やその業務内容を「九博の舞台裏」として紹介した。
エ　X（旧Twitter）では、専門的な内容もタイムリーに楽しめるよう、担当研究員によるインパクトのある掲載案を募り、情報を発信した。また、Facebookで４言語（日、英、中、韓）による情報発信を継続した。
オ

・特集展示「人吉球磨の玉手箱」では、研究員が文化財を紹介する動画（YouTube）を作成した。
・綴プロジェクトを通じて寄贈を受けた「四季花木草花下絵山水図押絵貼屏風」高精細複製品を紹介する動画（YouTube）を作成した。

【補足事項】
3)-3
（九州国立博物館）
エ　メールマガジンの配信：年24回（メルマガ開封率40.9%）、Instagramのフォロワー数9,654人、 X（旧Twitter）フォロワー数32,767人

| 【定量的評価】<br>項目 | 年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウェブサイトのアクセス件数 | 1,492,580件 | 1,670,014件 | C | | 824,819 | 977,605 | 1,430,301 | 1,726,318 |

| 【年度計画に対する総合評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | InstagramやX（旧Twitter）などのSNSを活用した情報発信と、チラシや情報誌などの紙媒体での広報により、様々な年代にアプローチできるよう広報に取り組んだ。また、「刀剣フェスティバル」への参加(監修したコラボ商品は全20種類)など、新しい試みにも積極的に取り組んだ。　以上のことから年度計画を順調に遂行したと判断し、B評定とした。 |

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

| 【中期計画に対する評価】 | 【判定根拠、課題と対応】 |
|---|---|
| 評定：B | 来館につなげるための広報はもちろん、来館できない方にも楽しんでいただけるようYoutubeでの展示解説や、若年層の興味を引くようなショート動画の配信など、積極的な情報発信を継続している。また、企業とのコラボイベントに合わせて期間限定で毎週定時にX（旧Twitter）で文化財に関する発信をした。以上の実績から、中期計画を順調に遂行したと評価し、B評定とした。 |

【書式A】　施設名 皇居三の丸尚蔵館　処理番号 1323I

| 中項目 | １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|
| 事業名 | （３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実<br>3)-1広報計画の策定と情報提供、3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動、<br>3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実 |

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（５館共通）ア、（皇居三の丸尚蔵館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（５館共通）ア
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（５館共通）ア、（皇居三の丸尚蔵館）ア、イ、ウ

| 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　井手真二 |
|---|---|---|---|

（実績・成果）
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（５館共通）
ア　開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」（第4期）及び開館記念展以降における各企画展の開館カレンダーをウェブサイトに掲出した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（皇居三の丸尚蔵館）
ア　開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」（第4期）のチラシを製作・配布した。また、開館記念展以降における各企画展についても、展覧会全体とは別にチラシを製作・配布し、近隣博物館等の協力も得ながら広報の充実を図った。
イ　5年度に作成した館を総合的に紹介するリーフレット（5言語6種（日・英・中（簡・繁）・韓・仏））を東京観光財団のホームページにデジタルパンフレットとして掲載した。
ウ　5年度に引き続き、各展覧会の特設サイトを制作して、ウェブコンテンツの充実化を図った。また、トップページにおいて、チケットの残数に余裕がある場合はその旨の掲載を行った。
エ　5年度に引き続き、来館者に対する理解促進のため各展覧会の展覧会図録を発行・販売した。また、「いきもの賞玩」展では、全体の図録とは別に出品作品を紹介・解説する冊子を作成・発行した。加えて、「公家の書」展では展示の解説を補足する鑑賞ガイドを作成して配布した。外国人向けには、観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」を活用して、分かりやすく魅力的に作品を解説する多言語リーフレットを英語・中国語・韓国語で作成し、配布した。また、出品目録も日・英・中・韓の4言語で用意し配布を行った。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（５館共通）
ア・マスコミからの取材を広く受け入れ、新聞・テレビ・雑誌等の様々な媒体で積極的な広報を展開した。
・ＪＲ東日本（丸の内地下連絡通路）及び東京メトロ（大手町駅コンコース）のデジタルサイネージにて展覧会のポスター等の情報を掲出した。また、主要な美術館が所在する都内各所の駅（竹橋駅、乃木坂駅、三越前駅、大手町駅、表参道駅、京橋駅、恵比寿駅等）などへ重点的に広告を掲出した。
・東京国際空港（成田空港）の到着動線において透過フィルムによる大型ライトボックスの広告を掲出した。
・紡ぐプロジェクトに協力し、新聞紙上等での広報を行った。
・千代田区を通じてチラシ・ポスターの配布を区内各文化施設に対して実施した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（皇居三の丸尚蔵館）
ア　5年度に引き続き、各展覧会においてはそれぞれで報道内覧会を開催した。
イ　日本政府観光局（JNTO）と協力して、JNTOの公式ブログに当館展覧会の開催情報を英語で発信したほか、丸の内にあるJNTOツーリストインフォメーションセンターに展覧会チラシ（英語）を配架し、訪日外国人旅行者向けの広報も充実させた。
ウ　マスコミからの取材を広く受け入れ、新聞・テレビ・雑誌等の様々な媒体で積極的な広報を展開した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（５館共通）
ア　5年度に引き続き、当館のウェブサイトに各展覧会の特設ページを設けるなど充実を図った。アクセス件数5,324,685件
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（皇居三の丸尚蔵館）
ア　SNS（Instagram）を日英併記で積極的に投稿し、新規来館者層の開拓を行った。フォロワー数 約8,000人（3月末現在）
イ　5年度に引き続き、館のリーフレット（英語）を成田空港第一ターミナルのビジターセンターに配架し、誘客を図った。
ウ　7月より始めた夜間開館及び特別鑑賞会について、展覧会とは別にチラシを製作・配布した。

【補足事項】

| 【定量的評価】項目 | 6年度実績 | 目標値 | 評定 | 経年変化 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウェブサイトのアクセス件数 | 5,324,685件 | － | － | | － | － | － | 945,068 |

| 【年度計画に対する総合評価】<br>評定：A | 【判定根拠、課題と対応】<br>5 年度の広報を継続しつつ、成田空港や鉄道広告をはじめ、新聞や雑誌等の新規の媒体に積極的に露出し来館者の誘致を図った。観光庁や JNTO との連携も拡充して文化観光の推進にも寄与したほか、ウェブサイトのアクセス数は、5 年度の実績を大幅に上回るなど、A評定に相当すると判断した。 |
|---|---|

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

| 【中期計画に対する評価】<br>評定：A | 【判定根拠、課題と対応】<br>国内外に向けて積極的な広報活動を展開するのみならず、観光庁やJNTOとの連携も拡充するなど文化観光の推進にも寄与しており、中期計画の想定を大きく上回る実績を上げた。8年度の全面開館に向けて、各種媒体を強化・連携し、一層の改善を図る。 |
|---|---|